

# 知的障がい教育における協同学習の実践

北海道今金高等養護学校

# はじめに

本校では、平成24年度から3カ年計画で、「社会の変化に対応できる力を育てる実践的研究」に取り組み、「今養版キャリアプランニング・マトリックスの作成、指導内容表の検討、作業学習評価の見直し、教育課程検討、校内組織検討、事例研究」などを行いました。進路指導部の調査研究では、卒業生が抱える課題について、雇用主に聴き取りを行いました。

その結果、課題解決の方向性として、「本校の授業形態として、『一斉授業＋ＴＴ』が主に取られているが、この形をもう一度見直して『協同学習』などをベースにコミュニケーション能力の向上を目的として考えていくことで、苦手意識を持つことなく『関わり』をスキルとして得られるようになる」と考えられる。」とまとめられました（第4章調査研究〔平成26年度研究紀要創 第17号〕）。

このことを受けて、平成27年度から「卒後を見据えたキャリア発達を促す指導法の研究～協同学習と生活指導の充実を目指して～」に3カ年計画で取り組むこととし、今年度が2年次目となりました。今回の研究から、年間を通して授業担当者全員が年1回授業研を行い、授業研究を通して、協同学習の実践研究に取り組むこととしました。

特別支援教育における協同学習の取り組みを研究している涌井（2012）は、協同学習には5つの要素があり、授業では必ず5つの要素（①互恵的な相互依存関係、②対面的な相互交渉、③個人としての責任、④社会的スキルや協同・協働スキル、⑤チームの振り返り）を盛り込む必要があるとしています。

昨年度の研究では、5つの要素を授業に盛り込むこととし、全員が同じスタンスで協同学習を活用した授業が可能となるように、授業マニュアルを作成し、マニュアルに基づいて授業研究を行うこととしました。併せて、教科や指導形態別のグループ研では、協同学習を活用した授業を分析し、協同学習の5要素別に活動の事例を集約、整理、検討し、事例集を作成しました。活動の事例集は、協同学習を活用した授業設計と授業展開する上で参考となるものであると考えています。

授業マニュアルを活用した授業研究と活動事例の詳細な検討と修正をしていった結果、授業担当者の協同学習に対する理解は飛躍的に高まってきました。協同学習の5要素は見方を変えれば、「よい授業」の構成要件であるとも言えます。「主体的・対話的で深い学び」を成立させる上では、協同学習は効果的な指導の切り口になるばかりか、知的障がい教育の授業を確実に向上させ、生徒の能力開発につながるものであると考えます。

今後の課題としては、協同学習の5要素に加えて、「マルチな能力」を付け加えて授業に盛り込むことが挙げられます。その中には、内省的な活動であるメタ認知も含まれます。生徒は、経験を振り返って点検・評価したり（メタ認知的モニタリング）、相手の状況に応じて目標や行動を修正したりする（メタ認知的コントロール）ことには課題があり、意図的・計画的なメタ認知に関する指導も必要であり、このことは今後の課題として残されています。

校内研究の推進に当たっては、本校の研究アドバイザーとして、北海道教育大学函館校の北村博幸教授に、本校まで足を運んでいただき、重要かつ示唆に富む御助言をいただき、研究を推進することができました。深く感謝申し上げます。

本冊子は平成28年度の実践研究の事例を紹介しながら、今後の方向性をまとめた中間のまとめです。是非、忌憚のない御意見と御助言をいただければ幸いです。また、今後とも本校への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

北海道今金高等養護学校長

高 嶋 利次郎

## 目 次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 第1章 協同学習とは                   | 1  |
| 1 学びの共同体づくり                  |    |
| 2 知的障がい教育における協同学習の実践と課題      |    |
| 3 協同学習に代表される小集団による学習場面の設定の意義 |    |
| 第2章 特別支援教育における協同学習           | 9  |
| 1 協同学習の5要素                   |    |
| 2 協同学習の授業設計                  |    |
| 3 協同学習を支える「協同学習スキル」と配慮事項     |    |
| 第3章 協同学習の実践                  | 17 |
| 1 国語                         |    |
| 2 音楽                         |    |
| 3 作業学習                       |    |
| 第4章 協同学習の要素別活動事例集            | 37 |
| 1 事例集の構成                     |    |
| 2 国語                         |    |
| 3 数学                         |    |
| 4 体育                         |    |
| 5 音楽・美術                      |    |
| 6 生活単元学習                     |    |
| 7 作業学習                       |    |
| 第5章 成果と今後の課題                 | 52 |
| 1 成果                         |    |
| 2 今後の課題                      |    |
| 第6章 考察                       | 54 |
| 1 学びの共同体づくりを実現する学習集団の形成段階    |    |
| 2 協同学習を成立させるための教師の力量形成       |    |
| 3 協同学習と「主体的・対話的で深い学び」        |    |

## 第1章 協同学習とは

### 1 学びの共同体づくり

原田（2007）によれば、学習参加者が相互に学び合う「協同学習」は、生徒達同士や生徒達と教師との相互のコミュニケーションを促進し、共通の問題解決を目指してお互いの考えを積極的に出し合うことで、学習内容の理解・習得や新たな創造や発見を行うという、話し合いや助け合いを中心とした授業づくりです。その学習の中では、協同で学ぶ意義に気づき、協同で学ぶ方法を身につけることがねらわれています。

協同学習は一定の条件を満たしたグループ学習が適していますが、協同学習は学習集団の成員全員の成長を目標とした状態での学習を言います。そのため、一斉指導の形態であっても、学級成員が仲間の成長を願いながら授業に臨むならば、それは協同学習であるとも言えます。

協同学習を行うためには、学級を学びの共同体（ラーニング・コミュニティ）として組織する必要があります。そのためには、次のような考え方や取組が重要になります。

- それぞれの授業で少人数グループを必要に応じて編成し、生徒が積極的に相互交流して学ぶことを促して、学級が学びあう学習集団（学び共同体）となるようにしていきます。
- 各グループや教室の仲間全員が共通する目標を達成するためには、協同しなければならないような学習目標（学習課題）を設定します。
- グループの目標を達成するためにはメンバー全員が何らかの貢献をせねばならない、お互いの貢献なしにはグループの目標が達成できない、という「互恵的な相互依存関係」を成立させます。共に学ぶ仲間への信頼感、よい意味での相互依存関係が醸成されることによって、学級の人間関係が改善し、生徒一人一人の気持ちが安定します。
- グループの学習目標の達成とグループの成功に対する学習者自身の責任を明確にして、生徒が学習課題に力を合わせて取り組み、協同して問題解決をしていくように促します。
- 学び合いの活動を支えるのは、自分の学びが仲間の役に立つ、仲間の学びが自分の役に立つという協同の精神です。そして、他者への信頼感・自己の安定感を支えとして、様々な考えやアイデアを積極的に持ち寄って互いに検討し合い、より高いレベルの内容や新しい概念を、みんなが理解できるようにしていきます。
- 学習後には、生徒の相互評価、振り返りの活動を入れ、学習活動を改善する機会を設けるようにします。

#### 学びの共同体づくりを実現する学習集団の形成過程

学びの共同体作りを実現する学習集団に学級を変えていくプロセスは、原田（2007）によれば、次のとおりです。

##### 第1段階(L1)～グループ内の互恵的関係の体験的理解、聴き合う関係や学び合いの成立による全員参加の実現

課題に応じて話し合い、個人思考・集団思考の適切に組み合わせた協同的問題解決を体験することで、協同することの大切さを学び、グループ内で協同する関係が育まれていく段階です。

### 第2段階(L2)～目的に応じた個と集団（グループや学級）の対話的交流

グループ内での協同の学びがうまく働くようになると、今度は目的に応じてグループの枠を超えた学び合いが行われるようになります。また、グループや学級全体の話し合いの結果やアイデアが、授業全体の流れに良い意味で反映されるようになります。

### 第3段階(L3)～学習者の自律と自立、協同の精神に支えられた個の集合体としての学習集団の形成、自主的な協同的問題解決

目標・課題に応じて、自主的に協同して学習する段階です。プロジェクト型問題解決学習、グループプロジェクト研究、課題探究型の総合的学習などの学習方式を取り入れ、課題探求や問題解決を目的にした協同参画の企画を実現します。

### 個人思考と集団思考の組み合わせ

協同学習では、個人思考と集団思考を適切に組み合わせた学習過程を必要に応じて計画することが必要です。その代表的な組み合わせパターンは次のとおりです。

例1：個人思考→集団思考（グループ・ペア）→個人思考（振り返り）

例2：個人思考→集団思考（グループ・ペア）→集団思考（クラス全体での対話）

例3：集団思考（グループ・ペア）→個人思考（一人でもできるようになる）

協同学習における教師の役割は、最終的には生徒に責任を持たせ、ひとり立ちさせることです。

### 協同学習を成立させるための教師の力量形成モデル

学級の生徒を様々な考えや個性をもつ主体的な個人が集合して互いに学び合う学習集団として成長させることは、「学びの共同体（ラーニング・コミュニティ）づくり」になります。

そのために、協同学習を実現させるために教師が身につけるべき力量としては、原田（2007）によれば、次のとおり4つの段階モデルが提唱されています。

### 第1段階（T1）協同学習の理論と基本的な技法と方略の理解

ワークショップ等で協同学習の基本的な考え方を体験的に理解し、協同学習の基本的な技法や方略を用いて、ペアやグループを活用した学習が次第にできるようになります。

生徒への働きかけとしては、次のとおりに行います。

- ・学習は一人一人単独の学習ではなく、クラスメートや他学年の生徒との話し合いやかかわり（相互作用）によって深まる。だから、自分のためにも、クラスの仲間のためにも真剣に学ぼう。
- ・クラスの中には多様な分かり方をしている仲間がいる。だから、クラスの仲間を競争相手ではなくお互いに相手の分かっていること（知識）を学び合おう。教師に頼るのではなく、クラスの仲間たちから学ぼう。

### 第2段階（T2）協同学習の多様な技法群と方略の適用

教師は、ペアやグループで協同して学習する（させる）体験を通して、授業で協同学習の基本的な技法を使えるようになります。

### 第3段階（T3）協同の精神に支えられた授業の開発と運用

教師は、担当する生徒集団の発達段階に合わせて、個別・ペアやグループ・学級全体の学習形態を効果的に組み合わせ、学習目標に応じて柔軟に使い分けることができるようになります。

### 第4段階（T4）協同学習のパーソナルセオリーの構築

教師は、みずから構築した協同学習モデルにしたがって、適切な学習活動を発展させることができるようになります。この段階になると、教師は、生徒達の学習動機を生かし、個々の特性を理解しつつ、各学習グループ間の動的な関係性を把握し、協同の精神に支えられた授業を計画・遂行することができるようになります。

## 2 知的障がい教育における協同学習の実践と課題

知的障がい教育における協同学習の実践と課題を検討した清水（2013）によれば、知的障がい教育における協同学習の導入では、次のことがポイントになります。以下、清水（2013）より表現を一部改変し、抜粋・紹介します。

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校の実践では、協同学習を生かす授業展開のポイントを次のように整理しています。

- ① 全員にしっかりと役割をもたせること
- ② 互いにしっかりと向き合って支え合わせること
- ③ 与えられた役割を果たせるように互いに努力し合うこと
- ④ 経過と成果（結果）を繰り返し振り返らせ確認させること
- ⑤ 以上の機会を通して、その場にふさわしい言動や態度（対人的・集団的技能）を学ばせること

さらに、授業づくりで見出された「物理的支援環境」「支援ツール」「教師の対応」\*を欠かせないポイントとしています。

\*「物理的支援環境」とは、児童生徒が理解しやすく学びやすい、そして活動に取り組みやすい環境づくりのことである。「支援ツール」とは、一人一人の児童生徒の特性や状態に応じた理解能力や技能を補うための自助具など補助的手段のことである。「教師の対応」とは、「物理的支援環境」を整え、「支援ツール」をしっかりと手当てした上で、それを最大限に生かすような教師の対応のことであるとしている。

教科別の指導では、学習課題を解決するために児童生徒が取り組む行為を『学びの活動要素』とし、「調べる・確認する・参照する」「尋ねる・相談する」「分類整理する」「記録する」「試行する」「報告する・発表する・説明する」「協議する・確認する」の7つに整理した。学習の進め方としては、子どもたちの特性を考慮し、学習課題を「連続的」に構成し、同じ学習課題の設定と構成を単元の中でできるだけ繰り返し（反復し）、徐々に学習内容

の量と質を高めていくこととしている。つまり、授業展開を構造化、固定化し、子どもたちが見通しをもちやすく主体的に取り組むことができるようにしている。また、ねらいや内容に応じて「協同の学習機会」を学習の中に効果的に設定することが大切であるとしている。「尋ねる・相談する」、「報告する・発表する・説明する」、「協議する・確認する」は、ペアやグループで取り組む協同の学習機会としてよう設定することが良いという結論に至っている。

静岡大学附属特別支援学校中学部では、平成20年度から、生活単元学習での研究実践の中で、生徒同士のやり取りを引き出すために協同学習の考え方を取り入れた実践を重ねています。

協同学習の5つの基本要素「肯定的な相互依存関係」「対面的な促進的相互交渉」「個人的実施義務や責任」「対人的技能と集団技能」「集団での改善処理」を単元の中に意図的に組み込んできた。また、授業を構築する際には8つのステップ「グループの授業の目的を書く」「生徒をグループに分ける」「役割を当てる」「個人の目標を決める」「教材」「指導する協同スキルを決める」「どのようにグループを維持するか計画する」「コメントとフィードバック」に沿って展開するようにした。

（平成20～21年度の実践）

- 協同学習の考え方を参考にすることで、互恵的な相互依存関係を明確にすることや協同スキルを使用する機会を意識的に設定することが徹底され、生徒が授業の見通しをもちやすくなっただけでなく、教師の授業づくりにおいても有効であったという成果をあげている。
- 協同学習の8つのステップの「1 グループの授業の目的を書く」つまり課題の明確化が重要なポイントとなること、ステップ2～6を踏まえた小集団（2，3人）の話し合い活動の展開を繰り返すことが生徒の見通しの持ちやすさにつながること、話し合いのスキル向上のために発表の仕方などを視覚的に支援することが有効であるという知見を得ている。

（平成22年度の実践）

- 協同学習の5つの基本要素のうち「対面的で促進的相互交渉」に焦点を当て、ペア活動の場面設定とそれを促進するための環境設定（座席の配置や道具の数の制限、確実に実行できる補助具など）とスキルの形成を徹底した。

（平成23年度の実践）

- 「集団での改善処理」に焦点を当て、学習活動の流れを一定にし、「自己評価」「相互評価」「他者評価」を繰り返し行った。学習の進め方を順序立て、視覚的に提示することで生徒たちが教師の指示がなくても主体的に学習を進めることができた。
- 自分の考えを伝える活動を支える「かっこいい札」や「パワーアップ札」、「発表の仕方ボード」などの物理的な支援を丁寧に提供して環境を整えることで、やり取りに必要なスキルの獲得やそのスキルの使用が図られた。
- 具体的に生徒自身が達成感を得やすい目標を設定し、活動ごとに即時的に振り返りを実施することで、生徒同士のかわりが深まることが確認された。

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校と静岡大学附属特別支援学校の実践は、次のとおり「協同学習の活用文脈のパターン化」と「態度的な目標達成の位置付け」が共通しています。

## 協同学習の活用文脈のパターン化

- ・指導する協同スキルを決める。
- ・やりとりのパターンを具体的に定め、文脈と使用するスキルやタイミングを設定し、それが確実に実行されるよう支援環境を綿密に整えている。
- ・同じパターンでの学習を何度も繰り返し行う。

この背景には、「できる状況づくり」と、自然な方法でのコミュニケーション指導である「共同ルーティンを用いた指導」が影響していると考えられています。

「できる状況づくり」とは、生徒の興味や関心に合った単元や題材を設定し、生徒にとって分かりやすく取り組みやすい環境を整えることにより、主体的な活動を可能にする授業実践です。「共同行為ルーティンを用いた指導」における「ルーティン」とは、特定の場面における行為の系列（フォーマット化されたもの）です。\*

\* 発達障害児に対するコミュニケーション・言語指導の方法の一つ。共同行為ルーティンは、日常の活動や集団ゲームにおけるルールやルーティン（順序性や因果性を含む定型化された行為の連鎖）を分析し、再構成し、場面設定を行って、そこでのやりとりや言語の使用を目的化して指導するもの。

Table 1 クレープづくり場面でのスクリプト

|                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| 場面 1: クレープづくりの始まりを知る。        | 4) ボールを渡す。                     |
| 場面 2: 机を準備する。手洗いをし、エプロンを付ける。 | 「どうぞ」                          |
| 場面 3: 材料を混ぜ合わせる。             | 5) フライ返しを受け取る。                 |
| 1) 準備台の所に行き、クレープの生地をつくる。     | 「フライ返しください」                    |
| ・粉をボールに入れる。                  | 6) クレープを裏返す。                   |
| ・牛乳を入れる。                     | 7) 皿とフォークをもらいに行く。              |
| ・あわだてきでかき混ぜる。                | 「皿とフォークをください」                  |
| 2) ホットプレートの準備をする。            | 8) フライ返しを受け取る。                 |
| ・ペーパータオル、わりばし、油をとる。          | 「フライ返しください」                    |
| ・ホットプレートに油をひく。               | 9) クレープを皿に取る。                  |
| 場面 4: クレープを焼く。               | 場面 5: トッピングを選ぶ。                |
| 1) ボールを受け取る。                 | 1) トッピングを指導者Bにもらいに行く。          |
| 「ボールをください」                   | 2) ジャムかチョコを選ぶ。                 |
| 2) お玉を受け取る。                  | 「ジャム（チョコ）ください」                 |
| 「お玉ください」                     | 場面 6: 会食し、もう1枚欲しいときは、焼く（場面4へ）。 |
| 3) ホットプレートの上に生地を流し、焼く。       | 場面 7: 後かたづけをする。                |

Table 1 大谷博俊・小南霞（1999）

## 態度的な目標達成の位置付け

一人一人の学び方を丁寧に分析し適切な指導と必要な支援を行い、協同学習による授業を繰り返すことで、態度的目標（人間関係の形成やかかわりあい）が達成されるだけでなく、般化や応用能力の育成にもつながる可能性がある。

2年生の生徒たち6人が生活単元学習のキャンプファイヤーにおけるスタンツの学習の中で、教師の見守りだけで、昨年度の学習をもとに自分たちの力で他者評価を繰り返しながらダンスの練習をやり遂げた。驚くことに、その他者評価はダンスの演者以外のすべての生徒が参加していた。自閉的傾向が強く柔軟なやりとりが難しい生徒や知的障害が重く言語でのコミュニケーションが難しい生徒には、「かっこ良かった？パワーアップどっち？」「A君？B君？」と彼らが答えやすい質問をしたり、それでも難しいと判断すると写真カードを持ってきて使用したりする等、全員が活動に参加できるような支援を生徒たちが協力して行っていたそうである。

（静岡大学附属特別支援学校中学部でのエピソード）

知的障がいに基づく特有の「学習上又は生活上の困難」としては、般化や応用が難しいことがよく挙げられます。知的障がい教育における自立活動のねらいは、この問題をいかに改善・克服していくかにあります。自立活動の内容は、「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」と「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」で構成されています。指導に当たっては、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても、密接に関連を図って行うものです。教科や教科等を合わせた指導の中であっても、協同学習の手法を取り入れることにより、自立活動の目標（協同学習における態度的目標）の達成を授業目標として位置付けて取り組むことができます。

その結果として、次のような効果が期待できます。

- 説明や質問を行うことで自分の不明確な点が明らかになり、より深く理解できるようになる。
- 集団全体として豊かな知識を持つことができる。
- 相手の反応等によって、自己の認知過程や思考のモニタリング（評価調整）ができる。
- やりとりをすることで参加への動機が高められ、同じ意見や活動を共有することによって、グループ意識が高まる。

知的障がい教育では、相互に学び合い、援助し合う、分かるまで援助要請を続ける、教わってから自分でもやってみる、自分の思考を外化する（何を知っているか、どこが問題かなどを明確に言葉で表現していく）ことが必須です。本校で取り組んでいるキャリア教育は、知的障がいのある生徒が生涯にわたって、社会において働き自分の役割を果たしながら自分らしい生き方ができるようになるための教育であり、共生社会における市民を育てる教育です。卒業後の就労先や生活の場所では、生徒達は個としての成長と集団への寄与が生涯にわたって求められます。

そのため、協同学習の導入は、本校の重点課題であるキャリア教育と生徒指導の充実につながるばかりではなく、共生社会の市民として生涯にわたって、社会人として成長し続けていく基盤を培うことができると考えます。

### 3 協同学習に代表される小集団による学習場面の設定の意義

大庭ほか（2012）による小集団学習の検討に基づいて、以下紹介します。

知的に障がいのある生徒は理解力や記憶力に課題があり、学習に対する苦手意識があります。そのため、学習に対する苦手意識を軽くするような学習の動機付けが必要になります。学習内容を生徒の身近な生活と結びつけて扱うことが基本となります。生徒の学習や活動に良さを見いだしてタイミングよくほめることも大切です。

障がいのない生徒の場合、例えば計算問題では、計算方法を想起して計算した後、検算して計算間違いがないか点検します。あるいは、答え合わせをして間違っていたら、計算の過程のどこで間違っただのか確かめます。計算の仕方を想起（計画）し、実際に計算処理した後、計算結果に基づいて計算の仕方あるいは実際の計算処理の適否を確認し、間違っただけで学習していた箇所を際学習することで正しい計算の仕方と計算処理の両方を学びます。

見方を替えると、学習の見通しや計画（内容・方法・留意事項）を立てて学習し、その結果によって学習の見通しや計画が適切だったか振り返り、より適切な内容に修正していきます。このフィードバックが学習の深まりになります。知的障がい教育の場合、学習の振り返り（自己評価、他者評価、教師による評価、そして自分自身の気づき、学習や活動の計画の修正）が、生徒だけの力ではシステム化されていかない教育活動上の特徴があります。そうすると、誤学習が多くなるばかりか、学習意欲の低下により未学習部分が増加する傾向が助長されます。知的能力の高さに比べて「意外に知らない。（未学習）」、「できる範囲に限られる。」理由の一端はここにあると考えます。

そこで、協同学習のように小集団学習の場面を設定し、教師や仲間からの個別の評価を得られやすくすると、学習・活動の見通しや計画を修正しやすくなります。計画－実施－評価（自己・他者）の一連の流れを繰り返しを行い、生徒が自分や集団の学習成績や活動実績が向上したことに気付かせると、メタ認知力が向上します。このような取り組みをしていくと、他の生徒や人の活動を見て学ぶ力も向上し、社会に出て働く際に職場の同僚の動きを見て、早く学ぶことができるようになります。

### 4 協同学習に代表される小集団学習における指導のポイント

協同学習に代表される小集団学習における指導のポイントは次のとおりです

- (1) 小集団の編成に当たっては、等質ではない多様性のあるメンバーで小集団を編成する。そのため、学科合同や異学年合同で小集団を編成することが有効な方策です。また、卒業後は異なる年齢層や能力の人と働きますので、そのための準備としても重要です。
- (2) MTは小集団学習場面においても、集団全体に対して課題を提示したり、STと生徒、生徒相互の関わりの状況を観察し、随時必要な指導や支援を行います。
- (3) STは小集団内で常に生徒と活動を共にすることによって、MTには読み取ることができない生徒の活動状況をMTに伝達して共有する役割を果たします。

STは生徒の協同活動者であると同時に、生徒の活動を支援する役割を担います。STは生徒の課題解決の状況に応じて、課題解決の仕方をやってみせる（演示する）などの役割も果たします。

また、集団内の生徒の活動が停滞したときに積極的に協同活動に誘導して、課題解決の仕方を提示したり、生徒相互の関わりを促します。

メタ認知を育てる上では、コミュニケーションや行動についてのメタ認知を育てることが重要です。三宮（2004）＊ によれば、次のとおりです。なお、例の一部は引用者が作成してあります。

＊ 三宮真智子（2004）思考・感情を表現する力を育てるコミュニケーション教育の提案：メタ認知の観点から、鳴門教育大学学校教育実践センター紀要19，151-161．より一部改変。

メタ認知はメタ認知的知識とメタ認知的活動で構成されます。

#### ○ メタ認知的知識

- ・ 自分自身の言動に対する振り返りを行って、自分自身の言動について評価すること

例 「私には自分の気持ちを伝えるための語彙が足りない。」

「私はよく考えずに行動してしまい失敗する。」

- ・ 周囲の人についての特性について気づき言葉で表現すること

例 「AはBよりも司会進行が上手である。」

「Aは私よりも作業を粘り強く取り組める。」

- ・ 一般的なコミュニケーションや行動の特性について理解していること

例 「伝えたつもりのことと伝わったこととは異なる場合がある。」

「毎日継続して取り組むことが難しい。」

- ・ 課題についての知識をもっていること

例 「プレゼンテーションは受け手の理解を得るためのものだ。」

「この作業で大切なことは正確さとスピードだ。」

- ・ 方略についての知識

例 「分かりやすい資料を作るためには、図解表現を用いるとよい。」

「この箱折りは、こちらから曲げるとスムーズに進む。」

#### ○ メタ認知的活動

- ・ メタ認知的モニタリング

例 「このレポートは論理的に文章を展開しているか」といったコミュニケーションについての点検や予想、評価など。

- ・ メタ認知的コントロール

例 「説明が聞き手に理解されていないようなので具体例を紹介しよう」といったコミュニケーションについての計画や修正、目標設定など。

## 第2章 特別支援教育における協同学習

### 1 協同学習の5要素

特別支援教育における協同学習の研究を行っている涌井（2006）は、協同学習を次のように押さえています。

「協同学習とは、小集団を活用した教育方法であり、そこでは生徒たちが一緒に取り組むことによって自分の学習と互いの学習を最大限に高めようとするものである。・・・（中略）・・・学習者を小集団に分け、その集団内の互恵的な相互依存関係をもとに、協同的な学習活動を生起させる技法」

そして、「一つの指導技法であるという枠にとどまらずに、協力・協働に価値をおく教育理念」でもあるとしています（涌井，2012）。

協同学習の基本要素としては、以下の5つがあり、協同学習における授業作りでは、学習集団の成長の状況や授業のねらいに応じて、基本的に5つの要素を取り入れる必要があります。しかし、集団の成長が十分でない場合や授業のねらいが5つの要素に適合しない場合には、該当する要素のみを取り上げることもあり得ます。例えば、入学して間もなくで集団作りが進んでいない場合や、調べることで授業が終了する場合には、5つの要素を含みません。

また、全ての授業に協同学習を導入するのではなく、授業のねらいや内容・授業展開に応じて取り入れます。

| 協同学習の要素     |                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①互恵的な相互依存関係 | 目標、教材、役割分担、評価や成果（例えば、出来上がった作品、賞状、達成のご褒美シールなど）などについて互いに協力を必要とするような関係、つまり「運命協同体」の関係。<br>→「クラス（班）の全員が課題をクリアする。」「班で各自が自分の役割を果たし、協力して壁新聞を作る。」など、全員が協力しないとできないような関係を設定する。 |
| ②対面的なやりとり   | 仲間同士、援助したり、教え合ったり、議論したり、励ましたり、褒めたりしあうことで子どもたちがお互いの学習を促進し合う機会を設定する。<br>→生徒同士の教え合いが成立するような水準の課題設定を行う。                                                                 |
| ③個人としての責任   | 個々のグループメンバーは、個人の責任があり、自分のやるべき役割を果たして個人目標に到達できるようにする。                                                                                                                |
| ④協同学習スキル    | 質の高い協力ができるように、教師は必要な社会的スキルを指導するとともに、頻繁に活用される必要がある。                                                                                                                  |
| ⑤チームの振り返り   | どのように援助し合ったり、協力し合ったりしたらチームがうまくいったのかについて、チームで振り返る。                                                                                                                   |

※「チームの振り返り」は、協同学習の方法に慣れてきてから、導入します。

## 2 協同学習の授業設計

協同学習を活用した授業作りをする上で、授業案（略案）の流れに沿って、授業設計の仕方を指導略案の様式で示すと、以下のとおりになります。

指導略案様式（記入例）

|         |                |     |  |
|---------|----------------|-----|--|
| 単元・題材名  |                | 生徒  |  |
|         |                | 場所  |  |
| 日時      | 平成 年 月 日（ ） 校時 | 指導者 |  |
| 単元の全体目標 |                |     |  |
| 本時の目標   |                |     |  |

| 過程<br>時間  | 学習活動                   | 生徒の活動 | 教師の活動                                                                                                                                                                                                          | 教材・教具 |
|-----------|------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 導入<br>〇分  | 前時の復習<br>本時のめあて<br>と課題 |       | <p>○<b>前時の復習をする。</b></p> <p>○<b>本時のめあてと課題を提示する。</b></p> <p>＜協同学習の要素や配慮事項例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を解決するために、教え合ったり助け合ったりしていいことを確認する。(②)</li> <li>学習の進め方を順序立て、黒板に視覚的に提示する。(配慮⑮)</li> </ul> |       |
| 展開<br>〇〇分 | 学習ポイント<br>の確認          |       | <p>○協同学習のポイントを確認する。(④)</p> <p>＜協同学習の要素や配慮事項例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞くときはうなづくなどのリアクションを取る。(④)</li> <li>グループ内で発言が少ない生徒に発言を促すようにグループ全員に指導する。(配慮⑥)</li> </ul>                              |       |
|           | 課題に対する<br>発問<br>生徒の発表  |       | <p>○<b>課題に対する考え方や答えを考えるように発問する。</b></p> <p>○<b>生徒から質問や考えを引き出す。</b></p> <p>＜協同学習の要素や配慮事項例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小グループで行ない、グループ内で授業の目的を確認し、「一人一人に役割を当てる」「個人の目標を決める」ようにする。(③)</li> </ul>    |       |
|           | 教師による説明                |       | ○ <b>教科書、具体物、示範などにより説明する。</b>                                                                                                                                                                                  |       |

| 過程<br>時間  | 学習活動         | 生徒の活動 | 教師の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 教材・教具 |
|-----------|--------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
|           | 協同学習         |       | <p>○ペアやグループで互いに説明するように伝える。(②③④)</p> <p>＜協同学習の要素や配慮事項例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協同スキルを実施する相手をはっきりさせる。(配慮①)</li> <li>・的確に説明できない生徒には、代弁をして生徒自身が話すように促す。(配慮⑫)</li> </ul> <p>○互いに教え合うように伝える。(②④)</p> <p>＜協同学習の要素や配慮事項例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内の仲間関係に常に注意を払う。(配慮⑥)</li> </ul> |       |
|           | 応用・発展        |       | <p>○<b>応用・発展的問題に取り組ませる。</b></p> <p>○<b>生徒による問題作りができるように導く。</b>(④)</p> <p>＜協同学習の要素や配慮事項例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの感情や意見の違いを認めながら調整する。(④)</li> <li>・同調することが強制されないように注意を払う。(配慮⑦)</li> </ul>                                                                                                       |       |
| 整理<br>〇〇分 | まとめ・<br>振り返り |       | <p>○<b>「分かったこと」と「分からないこと」を明確化させる。</b></p> <p>○生徒同士で相互評価させる。(コメント)(⑤)</p> <p>＜協同学習の要素や配慮事項例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー全員が達成感を感じられるように褒め方を工夫する。(配慮④)</li> </ul> <p>○教師による評価(個別・全体)</p> <p>○<b>次時のめあてや課題を知る。</b></p>                                                                              |       |

(凡例)「**前時の復習…。**」～授業の流れの骨子、「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※(①)… 互恵的な相互依存関係 (②)… 対面的なやり取り (③)… 個人としての責任

(④)… 協同学習スキル (⑤)… チームの振り返り

※(配慮①～⑰)… 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※(配慮☆)… オリジナルの配慮事項。

### 3 協同学習を支える「協同学習スキル」と配慮事項

#### (1) 協同学習スキル

協同学習スキルのうち、「考えるスキル」は寺嶋ほか（２０１３）による「小学校学習指導要領に基づく思考力・表現力育成のための目標リスト」から引用し、「集団で生活するスキル」と「コミュニケーションスキル」は茨城県教育研修センター（２００５）の「学校生活スキル尺度」から、適宜引用してあります。

#### 【考えるスキル】

（小学校段階）

- 1 知っていることや調べたことをもとに、結果を予想することができる。（推論する）
- 2 他の人の気持ちを予想することができる。（推測する）
- 3 もの（こと）のようすを予想することができる。（推測する）
- 4 自分なりの見方で、何かについて考えることができる。（着目する）
- 5 一つのもの（こと）をさまざまな視点から考えることができる。（多面的にみる）
- 6 一つのもの（こと）を全体的に見渡して考えることができる。（概観する）
- 7 自分なりの見方で、観察することができる。（観察する）
- 8 二つのもの（こと）の同じところや違うところを比べることができる。（比較する）
- 9 いろいろなもの（こと）を、いくつかに分けて整理することができる。（区別、整理、分類する）
- 10 いろいろなもの（こと）を順序に沿って整理することができる。（整理する）
- 11 条件に応じて、いろいろ試したり考えたりすることができる。（変える）
- 12 起きていることの理由について考えることができる。（関係づける）
- 13 学んだことを普段の生活に関係付けて考えることができる。（関係づける）
- 14 もの（こと）の内容やしくみを明らかにすることができる。（分析する）
- 15 何かを調べたりまとめたりするときに、いくつかの中からぴったりの方法を選ぶことができる。（選択する）
- 16 何かをまとめるときに、多くの情報から自分に必要なものを選ぶことができる。（選択する）
- 17 色々な方法で、答えを確かめようとすることができる。（確かめる）
- 18 表現や内容について、意見や感想を持つことができる。（評価する）
- 19 必要なもの（こと）をよく調べたり、考えたりして、選ぶことができる。（吟味する）
- 20 もの（こと）を明らかにするために、しっかりと考えることができる。（考察する）

#### 【集団で生活するスキル（集団活動スキル）】

（小学校段階）

- 1 暴力をふるったり人を傷つけることを言う前に、一度止まって考えることができる。
- 2 授業中むだ話をしないで、先生の言うことに集中できる。
- 3 相手の立場に立って考えてみるることができる。

- 4 先生や友だちが話しているとき、きちんと聞くことができる。
- 5 まちがいがあったとき、素直に謝ることができる。
- 6 人や自分が失敗しても許すことができる。
- 7 注意されたとき、自分の行動に問題があったかどうか考えることができる。
- 8 集団で行動するとき、自分の番がくるまで待つことができる。
- 9 他者を励ますことができる。

(中学校段階)

- 10 自分の知りたいことを聞くことができる。
- 11 相手の立場に立って考えてみることができる。
- 12 注意されたとき、自分の行動に問題があったかどうか考えることができる。
- 13 暴力をふるったり人を傷つけたりすることを言う前に、一度止まって考えることができる。
- 14 まちがいを素直に謝ることができる。
- 15 係や当番活動などの自分の与えられた仕事をするすることができる。
- 16 集団で行動するとき、自分の番がくるまで待つことができる。
- 17 授業のグループ活動のとき、協力して活動できる。
- 18 苦手なクラスメートともつき合える。

#### 【コミュニケーションスキル】

(小学校段階)

- 1 人にどう話しかけたらいいのか、どう会話を始めたらいいのか知っている。
- 2 うなずきながら、相づちをうちながら笑顔で聴くことができる。
- 3 どのような発言や態度であっても、馬鹿にした態度をしない。それに対して、説明を求めたり、質問をしたりすることができる。
- 4 聞かれたことを理解し、それに対してきちんと答えることができる。(応答する)
- 5 友だちの発表したことや書いたことに対して、アドバイスをすることができる(助言する)
- 6 相手の立場に立って、もの(こと)を提案することができる。(提案する)
- 7 ねらいに応じて、課題をもって取材することができる。(取材する)
- 8 よく聞いて、分からないことや確かめたいことを質問することができる。(質問する)
- 9 見たことや知らせたいことについて、必要なことをおとさないで、人に伝えることができる。(紹介する)
- 10 必要なことについてまわりの人と連絡をし合うことができる。(連絡する)
- 11 体験したことや考えたことを記録し、報告することができる。(報告する)
- 12 話したいことをしぼって、もの(こと)の理由を説明することができる。(説明する)
- 13 自分の意見を主張することができる。(主張する)
- 14 自分の考えを明らかにして相手にわかってもらうことができる。(説得する)

- 15 何かを伝えるときに、相手に分かりやすい内容で組み立てることができる。(構成する)
- 16 必要な資料を自分なりに必要なかたちにすることができる。(加工する)
- 17 自分の考えを伝えるために、文章や資料をわかりやすいかたちにすることができる。(編集する)
- 18 自分の考えをまとめることができる。(まとめる)
- 19 みんなの考えを一つにまとめて表すことができる。(まとめる)  
(中学校段階)
- 20 異性と自然に話すことができる。
- 21 自分の感情を表現する方法を知っている。
- 22 仲のよい友だち同士がけんかしているとき、どうしたらいいのかわ知っている。
- 23 友だちの話を相手の身になって聞くことができる。
- 24 自分の嫌なことを断ることができる。  
(高校段階)
- 25 友だちに自分の考えを打ち明けることができる。
- 26 自分の悩みを誰かに相談できる。
- 27 人との会話の中で、話を広げていくことができる。
- 28 人に対して、自分から話し掛けていくことができる。
- 29 友だちの相談にのることができる。
- 30 異性と自然に話すことができる。
- 31 困ったとき、誰かに手助けを頼むことができる。
- 32 自分の知りたいことを聞くことができる。
- 33 タイミングを見て、相手の気持ちを考えて、自分の考えや気持ちを伝える。
- 34 友だち同士がけんかをしている時、間に入り仲を取り持つことができる。
- 35 その場の雰囲気に合わせて行動することができる。
- 36 友だちとの仲がこじれたとき、どうしたらよいか知っている。
- 37 互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする。
- 38 友達の個性や長所に気付くことができる。
- 39 友だちとの関係から自分の個性や長所に気づくことができる。
- 40 話し合いの方向性を与え、問題や課題の解決策をみんなで考えることができる。

## (2) 配慮事項

- ① 協同学習スキルを実際に活用できるように指導場面を物理的に構造化する。

例 ○ 協同スキルを実施する相手を限定する。  
○ 立ち位置に足形のマークを貼る。  
○ 机の配置を話しやすいように向かい合わせる。  
→生徒が関わりやすい物理的な環境を整える。

- ② チームや個々人の目標達成までの遂行状況を逐次フィードバックする。  
→チーム内の協力を促進するために、誰が手助けが必要なのかを見て分かるようにする。

例 ○ 体育の陸上競技の授業で自己ベストをクラス全員が更新することを目標にした授業では、更新できた者は体操帽を赤、未達成の者は白とする。  
○ 黒板に生徒の名札カードを貼って、課題ができた人は右側に移す。  
→「一人はみんなのため、みんなは一人のため。」の精神で

- ③ メンバーの遂行能力、数的処理能力、グループの人数などに配慮して、チームや個々人の達成目標（行動）を設定する。  
→課題に対する学習の困難度が高い生徒が、周りの生徒の手助けで達成できそうな目標を設定する。

- ④ メンバー全員が達成感を感じられるほめ方を工夫する。

例 ○ 賞状一枚で班のメンバー全員が達成感を感じられる場合は1枚のみとする。  
○ 一人一人に渡された方が達成感が強いなら、人数分の賞状を用意する。  
○ 言葉による賞賛と承認が達成感を満たすなら、その方法を採用する。

- ⑤ 生徒が互恵的相互依存関係を理解しているか、指導前と指導中に理解の状況を把握・確認する。

例 ○ 助け合ったり、教え合ったりして良いと伝えているのに、納得していないために行動化しないことがあり、助け合ったり教え合ったりして良いことを確認する。

- ⑥ チーム内の仲間関係に常に注意を払っておく。

例 ○ チーム内の成績の悪いメンバーへの攻撃を回避する。一人一人が積極的にチームに貢献できるような目標設定を心がける。

- ⑦ チームに同調することが強制されないように注意を払う。

例 ○ 意見がぶつかり合って、話し合って解決する過程を重視する。  
○ 相手の意見を尊重しながら自己主張する話し方を指導する。

- ⑧ 生徒の特性を考慮し、学習課題がつながりがあるように連続的に構成し、同じ学習課題の設定と構成を単元の中でできるだけ繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく。
- ⑨ どの学習活動も協同で行えばよいというわけではなく、ねらいや内容に応じて「協同学習の機会」を学習の中に効果的に設定する。
- ⑩ 授業を構築する際には8つのステップ「グループの授業の目的を書く」「生徒をグループに分ける」「役割を当てる」「個人の目標を決める」「教材」「指導する協同スキルを決める」「どのようにグループを維持するか計画する」「コメントとフィードバック」に沿って行う。
- ⑪ 授業の始めに活動の全体像（流れ）を視覚的に示し、その授業で何をするかの見通しを生徒が持てるようにする。さらに、授業の進行に合わせて、いまどこをしているか、どこで終わりか、終わったらどうするかを明示する。
- ⑫ 生徒が思っていることや考えていることについて、的確に言えない場合には、望ましい言い方の例を代弁して話しかけ、その後、生徒自ら話すように促す。生徒同士のやり取りが成立するように配慮する。
- ⑬ 生徒一人一人の「学び方の違い」を前提とした授業の進め方を考える。

例 ○ ヒントカードやワークシートを自己選択させるなど、子どもの理解レベルに合わせた支援方法を準備する。  
○ 基本課題と発展課題を用意する。

- ⑭ 教師は生徒の学習の成果はもとより学習過程における努力をみとり、タイミング良く生徒に伝えてほめる。また、間違ったり失敗したりしたことを学習にとって重要なステップと捉え、それらを否定することなく認める。
- ⑮ プロジェクターや大型テレビなどのICT機器やホワイトボードなどを活用して、授業のポイントを視覚的に分かりやすく提示する。

例 ○ 黒板には全体の流れを示し、大型テレビにはその時点で重要な事項を表示しておくことにより、作業の計画や必要な方略を見通しやすくなる。  
○ 書いた文章や図などを修正しやすい教具（ホワイトボードなど）を活用する。

- ⑯ 授業展開に沿ったワークシートを用意し、視覚的な教材・教具や板書と連動させて、生徒にとって分かりやすく、見て確認できるようにする。
- ⑰ 授業の流れに沿ってノートを書かせたり、書き込んだワークシートを貼付することでその時間のノートができあがるよう工夫し、情報を適切に整理してまとめることを促す。

### 第3章 協同学習の実践

学習指導案（略案）、授業参観者のアンケート結果、アンケート結果を踏まえた授業者による授業の振り返りの順に紹介します。

#### 1 国語

「国語」（1学年）指導略案

|         |                                                                                                                         |     |               |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------|
| 単元・題材名  | 国語 白いぼうし②                                                                                                               | 生徒  | グループ3 1年生（8名） |
|         |                                                                                                                         | 場所  | 農業科1年A組       |
| 日時      | 平成28年 10月 31日（月） 3校時                                                                                                    | 指導者 | 成田 直浩         |
| 単元の全体目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容と登場人物の心情を読みとることができる。</li> <li>グループ活動を通して、友達と協力し、自分の役割を果たすことができる。</li> </ul> |     |               |
| 本時の目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容を理解することができる。</li> <li>自分の役割を理解し、友達と協力しながらグループ活動に取り組むことができる。</li> </ul>      |     |               |

| 過程<br>時間  | 学習活動     | 生徒の活動                              | 教師の活動                                                                                                                                                | 教材・教具        |
|-----------|----------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 導入<br>5分  | 挨拶       | ○挨拶をする。                            | ○挨拶をする生徒を指名する。                                                                                                                                       |              |
|           | 前時の確認    | ○前時の学習内容（白いぼうし①）について確認する。          | ○登場人物や文章内容の振り返りをする。                                                                                                                                  |              |
|           | 本時の確認    | ○前時の続きの学習プリント（白いぼうし②）に取り組むことを確認する。 | ○白いぼうし②のプリントに取り組むことを確認する。                                                                                                                            | 提示カード        |
|           | 本時の目標の確認 | ○本時の目標を確認する。                       | ○本時の目標を提示する。<br><協同学習の要素や配慮事項><br>・ワークシートの課題を全員で空欄を埋めるように伝える。(①)<br>・課題を解決するために、教え合ったり助け合ったりしていいことを伝える。(②)<br>・各ペアで、答えをホワイトボードに書く係と発表係を決めるように伝える。(③) | 提示カード        |
| 展開<br>35分 | 文章の読解    | ○学習プリントの文章を一人一文ずつ読む。               | ○友達に聞こえるように、はっきりと大きな声で読むことを伝える。<br><協同学習の要素や配慮事項><br>・文章を読むときは、仲間に聞こえやすい声とスピードで読むように伝える。(④)                                                          | プリント（白いぼうし②） |
|           |          | ○学習プリントの問題に取り組む。                   | ○一問ずつ解くことを伝える。                                                                                                                                       | ホワイトボード（4枚）  |

| 過程<br>時間 | 学習活動                            | 生徒の活動                                    | 教師の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 教材・教具                   |
|----------|---------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
|          |                                 | ○一問解くごとに、ペアで話し合って一つの答えを導き出す。             | ○ペアで話し合い、一つの答えをホワイトボード書くように伝える。<br><div> &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで互いの答えを議論し合いながら、一つの答えを導き出すように伝える。(②)</li> <li>・ホワイトボードに答えを書く係と発表する係が、互いに責任感をもって取り組むように伝える。(③)</li> <li>・活動する際に、分からないことは友達に相談し、それでも解決しない場合は教師に聞くように伝える。(④)</li> </ul> </div>                                      | ホワイトボード<br>マーカー<br>(4本) |
|          |                                 | ○答えを発表する。<br><br>○答え合わせをする。              | ○ペアごとに答えを発表するように伝える。<br><div> &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表するときは、仲間に聞こえやすい声とスピードで読むように伝える。(④)</li> </ul> </div> ○ <b>全てのペアが答えを発表した後、正答を伝える。</b><br><div> &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・答え合わせのときは、赤ペンだけを持ち、間違った場合は赤ペンで訂正するように伝える。(配慮☆)</li> </ul> </div> |                         |
| 整理<br>5分 | まとめ・<br>振り返り<br><br>次時の確認<br>挨拶 | ○教師の話を聞く。<br><br>○次時の内容を確認する。<br>○挨拶をする。 | ○ <b>本時の学習の取り組みについてコメントする。</b><br><div> &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー全員が達成感を感じられるように褒め方を工夫する。(配慮④)</li> </ul> </div> ○ <b>次時の授業内容を説明する。</b><br>○ <b>挨拶をする生徒を指名する。</b>                                                                                                                |                         |

(凡例)「**前時の復習…。**」～授業の流れの骨子 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 (②) … 対面的なやり取り (③) … 個人としての責任

(④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑱) … 配慮事項については前述。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業者：成田 直浩

協同学習（各要素）についての評価

① 互恵的な相互依存関係

- ・個人で答えを書いてから、ペアで1つの答えを導き出すという流れが良かったです。
- ・国語の読解ということで、個人で考えさせた後にペアで確認をし合うことで、要素を盛り込むことができていたと思います。
- ・全体で一つの要素を作り上げる観点は少ないですが、教え合う形で相互依存の関係が生まれていたと感じました。

② 対面的なやりとり

- ・個人で答えを書いてから、ペアで1つの答えを導き出すという流れが良かったです。
- ・隣同士で答え合わせをすることで、必ず自分の考えを発言する場面を設けることができていました。
- ・2人ペアになり、話し合っってホワイトボードに解答を書いていました。（発表と書く人に分かれていた。）
- ・小さい声で相談することも必要な場合もありましたが、机をペアで離して、十分に相手に聞こえる声で相談し合えた方が、活動がより活気づいたと思いました。

③ 個人としての責任

- ・個人で答えを考えてプリントに記入することで、個人の責任は十分に果たすことができていました。
- ・ペアでの話し合いでは、ホワイトボードに書く人、発表する人を決めることで、係が明確になり個人の責任をもって取り組めたので良かったと思います。

④協同学習スキル

- ・生徒がホワイトボードに書いた文字の大きさが小さく、見づらい部分がありました。発表に使うのであれば「相手に見やすい字の大きさ」を意識されるといいと思います。
- ・答えを教え合う際に、周りの迷惑にならないように小さい声で相談することという社会的スキルを指導することができていました。
- ・自分のことだけではなく、周囲を意識した発表の仕方についても触れていたため、生徒がはっきり答えることができていました。また、継続的に活動を行っている様子を見ることができました。
- ・小さい声で相談することも必要な場合もありましたが、机をペアで離して、十分に相手に聞こえるで相談し合えた方が、活動がより活気づいたと思いました。
- ・ペアの際、話かけている人が同じ人や、なんとなく自分の答えをすぐにあきらめ、他人に譲ってしまうような様子も見られたので、お互いになぜその答えにたどり着いたのかも話し合いで出てくるとより深まるのではないかと思います。
- ・国語の授業では、他の授業以上に協同学習スキルが複数使用されるはすですが、本時案には3つのスキルが記されていました。一見、多いように見えますが、授業展開に沿って考えると、次のような協同学習スキルを使う（指導する）場面を今後設けることができます。

「知っていることや調べたことを基に、結果を予想することができる。（推論する）」

「自分なりの見方で、何かについて考えることができる。（着目する）」

「一つのもの（こと）をさまざまな視点から考えることができる。（多面的にみる）」

「自分なりの見方で、観察することができる。（観察する）」

「二つのもの（こと）の同じところや違うところを比べることができる。（比較する）」

「条件に応じて、いろいろ試したり考えたりすることができる。（変える）」

「色々な方法で、答えを確かめようとするすることができる。（確かめる）」

「表現や内容について、意見や感想をもつことができる。(評価する)」

- ・協同学習の要素の④については、考えるスキル、集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有のスキルを鍛えていくことが大切であると思います。

⑤ チームの振り返り

- ・全体でホワイトボードを見せ合って答えを確認することで、自分達の解答に対しての振り返りを行うことができました。

協同学習全体を通して

- ・ペアでの話し合いですが、段階を踏みながら複数人でも同様に行えると思いました。そうすることによって、自主性なども育ってくるのではないかと思います。
- ・既に答えがある題材に対して答え合わせをペアで行っていたため、協同学習としては言語活動の盛り上がりやや少ないと感じました。ペアで問題に取り組むことや、時間を決めて問題に取り組み、分からない部分があった人が分かる人が教えてあげる取り組みの方が、言語活動としては充実したように感じました。
- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・登場人物を聞いたとき、全員に丸を付けさせてから発表させたら、もっと手が挙がると思います。
- ・話すスピードがゆっくりなので、とても聞きやすく、指示が分かりやすかったです。
- ・最後まで、ホワイトボードを出すときの「ドンッ」を言わせても良かったかなと思います。恥ずかしそうでしたが、流れができたなら雰囲気が明るくなるような気がしました。
- ・クイズ風に授業が進んでいて、集中が切れないと思いました。自分の授業にも取り入れたいと思います。
- ・学習プリントを使った学習は、授業の構造があらかじめしっかりとなる点で効果的です。展開もパターン化されて生徒は学びやすい授業形態です。しかし、授業者の主体的な発問や個別発問、巡視、生徒が考える手がかりの提供がもっとある方がよい授業になります。授業の山場を作る発問やプリントの構成を工夫していくとよいと思います。
- ・ペアでの話し合いの場合には、話し合い方の指導が必要です。クイズ的なやり取りになっています。むしろ、自分の考えを言うときにその理由を言うように仕向ける必要があります。例えば、「もんしろちょう」と答える場面で、なぜもんしろちょうなのかについて生徒が発表する設定をした方がよいです。
- ・「そんな」の回答の場面では、説明が必要です。
- ・「周りに答えが隠されている。」という投げかけがありましたが、読解に当たっての着眼点を指導することがあった方がよいと思います。
- ・授業の前半しか参観できなかったのですが、授業の雰囲気が良く、生徒達が発言しやすい様子が見られました。
- ・ホワイトボードに記入することで、互いの考えた解答が分かりやすく掲示できていたと感じました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。

② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                   |       |           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------|-----------|
| 単 元 ・ 題 材 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 国語「白いぼうし②」        | 生 徒   | 1年生徒8名    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                   | 場 所   | 農業科1年A組教室 |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 平成28年10月31日（月）3校時 | 授 業 者 | 成田 直浩     |
| <p>導入時に、ワークシートの課題を全員で協力しながら空欄を埋めるように指示したことで、生徒間で①「互恵的な相互依存関係」が出来上がったと感じた。また、本時の学習テーマや目標を確認する際に、提示カードを黒板に掲示することで、目的意識をもたせるとともに板書時間の短縮につなげることができた。</p> <p>展開では、読解プリントを一問ずつ自分で解き、ペアになってそれぞれの答えを議論し合いながら一つの答えを導き出す活動を取り入れた。この活動（②「対面的なやりとり」）を取り入れたことにより、必ず自分の答えを発言する場面を設けることができた。そして、ペアの中で導き出した答えをホワイトボードに書く係、発表する係を決め、互いに責任感をもって取り組めるようにした。（③「個人としての責任」）また、ペアの中で答えを教え合う際に、周りの迷惑にならないように小さい声で相談すること（④「協同学習スキル」）を指導した。⑤「チームの振り返り」については、全体でホワイトボードを見せ合って答えを確認することで、生徒たちの解答に対しての振り返りを行うことができた。</p> <p>今回の授業を通しての感想は、生徒たちの集中が切れないようにクイズ番組形式にしてみたが、細かな部分での配慮に欠けた。ペア活動の際に、話しかける生徒が同じであったり、自分の答えをすぐにあきらめてペアの生徒に譲ってしまったりする様子が見られた。お互いになぜその答えにたどり着いたのかということも話し合うように指導することで、より活動が深まるのではないかと感じた。また、ペア内での役割を固定せずに、一問ずつ交代制にして経験の幅を広げるように工夫するべきであった。良かったところは、クイズ番組形式で行ったことで、生徒が集中を切らすことなく参加することができたことである。</p> <p>協同学習を行うことで、生徒たち一人ひとりの責任感、友だち同士で教え合うことによる知識・技能、社会的スキルの向上が期待できることを改めて感じた。これらの力は、生徒たちの将来においてより必要とされると考えるため、今後の授業においても実践を積み重ねていきたい。</p> |                   |       |           |

## 2 音楽

### 「音楽」（2学年）指導略案

|         |                                                                                                                                                  |     |                                    |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------|
| 単元・題材名  | 創作ダンス（学校祭に向けて）                                                                                                                                   | 生徒  | 2学年全員                              |
|         |                                                                                                                                                  | 場所  | 音楽室                                |
| 日時      | 平成28年 10月26日（水）<br>4校時（11：30～12：15）                                                                                                              | 指導者 | MT：鐘ヶ江 真知<br>ST：岩城 研太、高田 のぞみ、外山 陽子 |
| 単元の全体目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>決められた歌やダンスの完成度を高めることができる。</li> <li>学校祭に向けて、学年全体の表現力を高めることができる。</li> </ul>                                 |     |                                    |
| 本時の目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人のアイディア（思考）を基に、どのようにダンスをするか仲間と考え（判断）、発表する（表現）ことができる。</li> <li>より良い表現方法について考え、ダンスに生かすことができる。</li> </ul> |     |                                    |

| 過程<br>時間  | 学習活動                 | 生徒の活動                                                                   | 教師の活動                                                                                                                                                                                                             | 教材・教具              |
|-----------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 導入<br>5分  | 挨拶<br><br>本時の確認      | ○指名された学級は、声を<br>合わせて始まりの挨拶を<br>する。<br>○今日の授業の内容と大切<br>にするポイントを理解す<br>る。 | ○挨拶する学級を指名する。<br><br>○今日の授業内容と、大切に<br>するポイント（思考・判断力・表現力）について説明する。                                                                                                                                                 | ・ホワイトボード<br>・キーボード |
| 展開<br>35分 | グループ分け               | ○周りの状況を見ながらグ<br>ループを作る。                                                 | ○各学級の生徒が一人ずついることを条件に、<br>6つのグループを作るよう伝える。<br><br>＜協同学習の要素や配慮事項＞<br>・課題を解決するために、教え合ったり、<br>助け合ったりしてよいことを確認する。<br>（配慮②）                                                                                             | ・ピアノ<br>・ギター       |
|           | 創作活動①<br><br>グループ内共有 | ○2小節のダンスを考え<br>る。<br><br>○考えたダンスを伝え合<br>う。                              | ○テーマは「祝」として、一人2小節のダンス<br>を考えるよう指示する。<br><br>＜協同学習の要素や配慮事項＞<br>・一人ひとりのアイディアを基に、グルー<br>プでダンスを考えることを伝える。（①<br>③）<br>○一人ずつ考えたダンスをグループの仲間に見<br>せる。（③）<br><br>＜協同学習の要素や配慮事項＞<br>・仲間は手拍子をするなど、発表しやすい<br>環境を作るよう助言する。（②④） |                    |

| 過程<br>時間 | 学習活動    | 生徒の活動                                    | 教師の活動                                                                                                                                                                                                                                                 | 教材・教具 |
|----------|---------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
|          | 創作活動②   | ○話し合いながら、4小節のダンスを考える。                    | ○個々のアイデアを参考にしたり組み合わせたりして、グループで4小節のダンスを創作するよう説明する。(①②③)                                                                                                                                                                                                |       |
|          | 発表・観賞①  | ○指名されたグループは発表する。<br>○他のグループのダンスを観賞・評価する。 | <div> <div> &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ学習課題の設定と構成を単元の中で繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく。(配慮⑧)</li> </ul> </div> ○グループを指名し、発表するよう指示する。 </div>                                                                                |       |
|          | 振り返り・練習 | ○話し合いながら、再度4小節のダンスを考える。                  | <div> ○生徒同士で相互評価させる。(②④⑤)</div>                                                                                                                                                                                                                       |       |
|          |         |                                          | <div> ○テンポや仲間の動きに合わせて手拍子するよう指示する。(④)</div>                                                                                                                                                                                                            |       |
|          |         |                                          | <div> <div> &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者は観る人を意識した表現をするよう伝える。(④)</li> <li>・観賞者は、他のグループの良い点と課題点を見つけ、発表者に伝えることを確認する。(②③④)</li> </ul> </div> ○他者からの評価や他のグループの発表を参考に、どのように工夫・改善するか話し合い、再度練習するよう指示する。(⑤)</div>          |       |
|          |         |                                          | <div> <div> &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ学習課題の設定と構成を単元の中で繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく。(配慮⑧)</li> <li>・仲間同士で話し合いを通して、共通理解の中で活動する。(②)</li> <li>・どのように工夫・改善しているか聞いていく。(⑤)</li> </ul> </div> ○曲に合わせて、順番に発表するよう伝える。(①③④)</div> |       |
|          |         |                                          | <div> <div> &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ学習課題の設定と構成を単元の中で繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく。(配慮⑧)</li> <li>・チームで振り返ったことを生かすよう伝える。(④⑤)</li> </ul> </div> </div>                                                                  |       |
|          | 発表      | ○曲に合わせて発表する。                             | ○曲に合わせて、順番に発表するよう伝える。(①③④)                                                                                                                                                                                                                            |       |

| 過程<br>時間 | 学習活動                        | 生徒の活動                                                                           | 教師の活動                                                                                                                                                                         | 教材・教具 |
|----------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 整理<br>5分 | MTより<br><br>次時の確認<br><br>挨拶 | OMTの話を聞く。<br><br>○次回の授業の内容を確認する。<br><br>○指名されたグループはタ<br>イミングを合わせて終わ<br>りの挨拶をする。 | ○学校祭で行う創作ダンスは学年全体の発表で<br>あることを確認する。(①③)<br><br>○他者の良いところを参考にするとともに、自<br>分の発言や行動を工夫・改善していくことの<br>大切さについて伝える。(④)<br><br>○ <b>次回の授業について説明する。</b><br><br>○ <b>挨拶をするグループを指名する。</b> |       |

(凡例)「**前時の復習…**。」～授業の流れの骨子 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※(①)… 互恵的な相互依存関係 (②)… 対面的なやり取り (③)… 個人としての責任

(④)… 協同学習スキル (⑤)… チームの振り返り

※(配慮①～⑱)… 配慮事項については先述。

※(配慮☆)… オリジナルの配慮事項。

#### 授業参観者アンケート

|                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業者：鐘ヶ江 真知                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 協同学習（各要素）についての評価                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>① 互恵的な相互依存関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループでダンスを4小節考える活動は、各グループ発言や動きが多く、活発でとても良い活動でした。改善点を挙げるとしたら、平等な発言時間を確保するため、時間を決めてグループ内で一人ずつ発表するなどあったと思います。</li> </ul>                                                                                                              |
| <p>② 対面的なやりとり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仲間と確認しながら意見を出し合い、積極的に活動に取り組んでいました。</li> <li>グループごとにダンスを考え、発表した後、お互いを評価していて良かったです。良いことも悪いことも伝え合っていたので、その後の活動で生かしやすかったのではないかと思います。</li> <li>意見を言う時間に、最初は普段良く発言している人中心に発言していましたが、徐々に普段あまり意見を言うことの少ない生徒も積極的に発言している様子が見られました。</li> </ul> |
| <p>③ 個人としての責任</p>                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>④ 協同学習スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内での活動だけではなく、ダンスをするにあたってメンバーが考えたダンスを1つ取り入れて仕上げる部分が生徒たちに様々なことを考えさせる良い手立てだったと思います。</li> <li>協同学習の授業展開としては、要素の「④協同学習スキル」が、創作活動においてより具体的に明記されると良かったです。</li> </ul>                                                                     |

#### ⑤ チームの振り返り

- ・各グループの発表が終わってから、良い部分と改善部分を発表する場面では、自分たちの評価と見られ方を意識できるもので良いと感じました。
- ・最初のダンス発表後、すぐに全体で評価し、それを受けて各グループで工夫、改善と周りの意見を吸い上げて参考にし、構成していて生徒たちにも成果が明確に出来ていました。
- ・ダンス後に即時評価として良い所、改善すべきところを周りの生徒に答えさせることで、お互いにとって良い関係ができたのではないかと思います。
- ・仲の良い者同士や自由にグループに分かれるとすぐに分かれることができますが、こちらからある程度指定をして分かれるように伝えたとスムーズに分かれるのが難しいことが多い中、すぐに分かれることができるのと、特性がバラバラ、同じクラスの仲間ではないグループの中で、限られた時間の中で話し合い創作したダンスを発表することがスムーズにできており、全体的にコミュニケーションスキルが高いように感じられました。

#### 協同学習全体を通して

- ・各グループでダンスを考える中で一人ひとりのアイデアを必ず組み込んだのダンスを構成していることにより、全員で1つの創作ダンスを構成していることが良かったです。
- ・特性がバラバラのメンバーで集まり、まずは自分一人でダンスを考える、メンバーそれぞれ考えたダンスを元により良いダンスを考え深めていく今回の授業設定は協同学習の基本的な理念にあてはまる内容であり良かったです。
- ・話し合い活動がされており、どこのグループも色々な意見が出ていました。それ自体はとても良いことだと思いましたが、仕切り役がある程度固定されてしまっているのかなと感じる部分もあったので、そこらへんの生徒へどういったアプローチをかけていくのかも必要かと思います。
- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。

#### 授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・ダンスがしやすいように教師が率先して環境作りに徹する様子が生徒にも見られたと思います。
- ・自分は体育なので、音楽のこと（専門的なこと）は、よく分かりませんが、ダンスを1分で考えると言ったときに半分以上はできないかと予想していましたが、半分以上は創作することができていました。日頃の学習の成果が発揮されていると感じました。このコミュニケーション能力、発言力、積極性が音楽の時間だけではなく、寄宿舎や実習、他の授業などあらゆる場面とどのようにして結びつけるかが、今後の課題であると思いました。
- ・生徒が主体的に活動していました。
- ・笑顔が多く見られました。
- ・のびのびと活動していました。
- ・活動に参加しない生徒がいないのが、すごいと思いました。
- ・楽しそうに取り組んでいて、雰囲気良く、表現することに慣れているようでした。
- ・MTがノリ過ぎて、挙手した生徒を見逃していました。
- ・みんな楽しそうで一体感を感じて良かったです。
- ・最初のグループでのダンス構成で1分は少し短く感じました。
- ・基本的にグループで考える時間は生徒主体で極力職員が入らないというスタンスに感じました。その上で必要あればSTの先生がそれぞれのグループのに入ってサポートしていましたが、グループによって入る入らないが極端に見えました。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちが生き生きとした表情で活動に取り組んでいる様子が見られました。</li> <li>・場の雰囲気づくりができていたため、生徒達がダンスを考えやすい良い環境であったと思います。</li> <li>・教師はエンターテイナーではなくてはならないという言葉があるとおり、生徒達を引きつけることができる働きかけがすごく勉強になります。</li> <li>・タイミングの良い投げかけをして、生徒からいろいろな表現を引き出してよかったです。</li> <li>・生徒が何を大切にすべきが明確に伝えられており、生徒の意識のベクトル合わせができていました。</li> <li>・テンポの良い授業展開で生徒を上手に活動に乗せていました。</li> </ul> |

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                   |       |        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------|--------|
| 単 元 ・ 題 材 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 音楽「創作ダンス」         | 生 徒   | 2学年全員  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                   | 場 所   | 音楽室    |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 平成28年10月26日（水）4校時 | 授 業 者 | 鐘ヶ江 真知 |
| <p>① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「互恵的な相互依存関係」については、一人2小節考えたダンスのアイディアを基にグループで4小節のダンスを創作すること、グループが順番にダンスを発表していくことで一つの曲になるという設定したため、生徒の意識のベクトルを合わせた上で授業を行うことができた。</li> <li>・「対面的なやりとり」では、グループとしてどのようにダンスを完成させるか話し合ったり、他のグループに対して、“良かった点”と“もう少し改善した方が良い点”について評価し合う場面を設定したことで、グループ内とグループ外でやり取りを行うことができた。</li> <li>・「個人の責任」では、“必ず4小節の中にグループ全員のアイディアを入れる”という条件を設定したことで、一人一人が責任を持って最初にダンスを考えることができたと思う。</li> <li>・「協同学習スキル」については、発表しやすい環境をつくるために“他の人が発表するときは手拍子をする”など、心理面に配慮したスキルを提示した。また、そのスキルを当たり前に行えるようになることで、テンポ感や小節感を習得することもねらいの一つとしたが、音楽の知識・技能面に関するスキルについても具体的に明記し指導する必要があったと思う。</li> <li>・「チームの振り返り」では、授業の最後ではなく、中間に振り返る時間を設定して授業を行った。他のグループから評価された内容を参考に、チームでより良いダンスに工夫するために最初に行ったダンスの振り返りや他のグループを見て取り入れたいところなどを話し合った。MTとして、話し合った後にダンスを発表することを伝えていたことや、活発な意見交換になるよう適宜言葉かけを行ったことで充実した振り返りを行うことができたと思う。</li> </ul> <p>② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良かったところは、伸び伸び表現できるような環境作りと生徒が待っている状態を作らないよう授業展開を工夫したことで、一人一人のアイディアや仲間とのやり取りを大切にしながら、テンポ感や小節感など音楽の要素を創作活動、表現活動を通して学ばせることができたと思う。</li> <li>・改善すべきところは、STの動きを明確にしていなかった点と、話し合いを仕切る生徒が固定している点だった。個々の生徒にどのような目標を設定するかにもよるが、グループの組み分け方を工夫し、STを効果的に配置する必要があると考える。</li> </ul> |                   |       |        |

### 3 作業学習

#### (1) 産業科

「作業学習」(3学年)指導略案

|         |                                                                                                                                         |     |                 |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------------|
| 単元・題材名  | 1年生に教える (糊葉の溶き方)                                                                                                                        | 生徒  | 産業科3年生8名(1年生8名) |
|         |                                                                                                                                         | 場所  | 窯業室             |
| 日時      | 平成28年 7月15日 (金) 3・4校時                                                                                                                   | 指導者 | 初山 小枝子          |
| 単元の全体目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>相手のことを考えて、コミュニケーションをとることができる。</li> <li>仲間と協力して作業を進めることができる。</li> </ul>                           |     |                 |
| 本時の目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>糊葉の溶き方を1年生に教えることができる。</li> <li>相手の良いところを見つけて、伝えることができる。</li> <li>協力して片付け・清掃をすることができる。</li> </ul> |     |                 |

| 過程<br>時間    | 学習活動               | 生徒の活動                                                         | 教師の活動                                                                                                                                                                                                                                                   | 教材・教具         |
|-------------|--------------------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 導入<br>10分   | 本時のめあてと課題          | ○本時のめあてと課題を理解する。                                              | ○ <b>本時のめあてと課題を提示する。</b><br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt;<br/>           ・「糊葉の溶き方」を3年生が1年生に教えることで、空欄を埋めて完成させることを伝える。(①③)         </div>                                                          | めあてと課題を記した掲示物 |
| 展開<br>10分   | 学習ポイントの確認          | ○教えるときにどんなことに気をつけたら良いかを知る。<br>○掃除を協力して行うために何か工夫して行動してみることを知る。 | ○協同学習のポイントを確認する。(④)<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt;<br/>           ・伝えたいことをしぼって説明することや表情、声の掛け方など相手にとって分かりやすくなるようにすることを伝える。(④)<br/>           ・協力して掃除をするためにはどんな行動をすれば良いのかを伝える。(④)         </div> |               |
|             | グループ分け             | ○ペアの組み合わせになる。                                                 | ○ペアの組み合わせを伝える。                                                                                                                                                                                                                                          |               |
| 協同学習<br>25分 | 協同学習<br>糊葉の溶き方を教える | ○「糊葉のときかた」に必要な道具、手順をペアの相手に教える。                                | ○ペアに教えるように伝える。(②③④)<br>○溶いたら3年生に報告させ、粉の塊が残っていないか教師が確認する。<br>○ボームは教師が扱う。(生徒からの依頼で)<br>○濃度を生徒に伝える。<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt;<br/>           ・適切な態度や言い方について、適宜助言をする。(④)         </div>       |               |
|             | 応用・発展              | ○糊葉の濃度の薄め方を教える。                                               | ○ <b>濃度の薄め方をペアに説明するように伝える。</b>                                                                                                                                                                                                                          |               |

| 過程<br>時間           | 学習活動   | 生徒の活動                                                                                               | 教師の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教材・教具 |
|--------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 11:30<br>15分       |        |                                                                                                     | <p>○④まで終わったペアには表示されている濃度に近づけるように伝える。</p> <p>○15分以内にすべて終わったペアがいたら、2つ目の糊薬を溶くように促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |
|                    | 片付け・掃除 | <p>○11:20頃から片付け始める。</p> <p>○全員掃除に取り組む。</p>                                                          | <p>○時間を見て、④まで終わったペアに片付けに入るように促す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>&lt;協同学習の要素や配慮事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力が必要な場面で、できていない生徒がいれば、適宜助言をして気付かせる。(①③④)</li> </ul> </div>                                                                                                                                   |       |
| 11:45<br>整理<br>20分 | 振り返り   | <p>○ワークシートに記入する。</p> <p>○1年生が発表する。</p> <p>○ペアでお互いの良いところを伝え合う。</p> <p>○掃除での協力についてグループで話し合い、発表する。</p> | <p>○ワークシートに記入させる。</p> <p>○「糊薬の溶き方」を完成させる。(①)</p> <p>○生徒同士で相互評価させる。(②④⑤)</p> <p>○教師による評価を伝える。(個別)</p> <p>○グループで話し合い、発表させる。(⑤)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>&lt;協同学習の要素や配慮事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「糊薬の溶き方」を見て確認できるようにワークシートにまとめさせる。(配慮⑬)</li> <li>・教師による評価は、良かった点を賞賛するようにする。(配慮④)</li> </ul> </div> |       |
| 10分                | まとめ    |                                                                                                     | <p>○教師によるまとめを行う。</p> <p>○3年生、1年生それぞれに分かれて反省する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |

(凡例)「**前時の復習…。**」～授業の流れの骨子 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係      (②) … 対面的なやり取り      (③) … 個人としての責任  
 (④) … 協同学習スキル      (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑰) … 配慮事項については先述。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：初山 小枝子

協同学習（各要素）についての評価

① 互恵的な相互依存関係

- ・3年生が1年生に教える題材として、とても良かったと思います。
- ・3年生が1年生に教えるという内容で、板書の空欄を最後に埋めるという課題があることから、「①互恵的な相互依存関係」では、「教える」と「教わる」というお互いに協力を必要とする要素が含まれていました。

② 対面的なやりとり

- ・特に、「②対面的なやりとり」が重視されていて「3年生は教える」「1年生はメモを取る」などの相互関係ははっきりしていて良かったです。
- ・3年生が1年生に教える中で、「正解。」「合っているよ。」「大丈夫。」など励ましの声が多く聞こえてきました。2人のペアということで1年生も質問しやすい様子でした。「②対面的なやりとり」の要素が十分含まれていたと思います。
- ・3年生と1年生の2人1組のペアで行うことで、より直接的なやりとりを可能にしていました。
- ・1年生と3年生はペアになり、主体的に活動するという授業内容で大変勉強になりました。どのペアを見ても、3年生がしっかり1年生に教えようとしている姿勢が伝わりました。また、1年生も、メモを取ったり質問したりとしっかり受け止めていました。

③ 個人としての責任

- ・1年生は「教わる」、3年生は「教える」という「③個人としての責任」を果たさなければならない要素がしっかり含まれており、とても良い授業でした。
- ・教える側（3年生）と教わる側（1年生）がそれぞれ1人ずつなので、教える責任と教わって覚えようとする責任をそれぞれがしっかりと持ちながら活動していました。
- ・ペアの組み方が実態を踏まえて組まれていました。また、「③個人の責任」が分かりやすく感じられるような内容でした。
- ・掃除の時間の「協力」はペアでの取り組みが継続しているのか、関係なく全員で協力するのかが、少し分かりにくかったです。

④ 協同学習スキル

- ・1年生の質問が少なかったため、必ずひとつは質問をするなどのルールがあると1年生も話しかけやすかったと思います。
- ・「笑顔」や「返事」など、教える側や教わる側が意識すべきスキルを確認した上で活動に入ったことで学びが深まったと思いました。
- ・1年生にとって、3年生から教えていただくことは本当に良い経験になったと思います。また、先輩に対する態度や言葉遣いについて、改めて考え、学ぶ良い機会となりました。
- ・2年次に「教わる側」で3年生として関わっている授業を見ました。女子は自分から先輩に質問し、男子は言われるがままでしたが、その男子がしっかりと1年生に説明しているので驚きました。また、女子も分かりやすく説明しており良かったです。

⑤ チームの振り返り

- ・授業の始めに、1年生と3年生それぞれの目標を確認してから始めたことも良かったと思います。そして、終わりに確認し、1年生が答えることができたのでお互いにとってとても良い授業になったのだと感じました。

#### 協同学習全体を通して

- 問題に協力して取り組むことで、協同学習がより活気のある形になっていると思いました。普段、教師に質問することを戸惑う生徒も先輩には、積極的に問題を解決するために聞くことができていたと思いました。
- 先輩が後輩に教える、とても良い取り組みであり、協同学習の要素がしっかりと入っている授業であると感じました。特に「②対面的なやり取り」、「④協同学習スキル」の要素が入っている良い授業だと思います。
- 学習指導案に「協働学習の要素や配慮事項」が具体的に明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。また、協同学習の型に沿って要領よく分かりやすい授業の組み立てをして、一貫して協同学習の要素を生徒に意識させる声かけをしており、協同学習の枠組みがしっかりとっていて良かったです。
- 3年生の生徒によっては、濃度の薄め方の説明の際に、なぜ最適な濃度の数値に合わせるかの説明が的確な場合があった一方では、説明そのものを忘れていて単に作業しながら同じ作業を1年生にさせて、薄め方の前になぜ薄める必要があるかの理解が十分ではない1年生もいました。目標は釉薬の溶き方ですが、行っていることは薄め方でした。この場合、活動の最初に容器側面に書かれている数値が目標数値であることとその理由を説明し、サンプルの釉薬をボーマ比重計で測定して現在の数値を示し、なぜ薄めるのかが分かるように意識付けた方が、説明する3年生も聞き取る1年生も共通の問題意識を持ちやすく、思考が活性化すると思います。協同学習の形式は指導案と授業展開において整っていますが、協同学習の手法をより深く活用して授業に生かす上では、思考を活性化させるための初めの意識付けがあるとよいと思います。
- また、上澄み液を注ぐ際の1回の分量の目安が分からず、時間内に終わらない生徒がいました。これは、注ぎ方の要領が試行錯誤の範囲にあることを示しており、ピッチャーに目盛りを付けるか、メジャーカップなどに注いで計量しメモした上で、かくはん後の濃度測定を経て、数値をメモして、次にどのくらい注ぐかを考える活動が3年生のリードで行われると、必然的に3年生が説明し、1年生に考えさせることになります。結果として、「予測と実施後の評価、次の予測」という流れで話し合いながら考えて作業する協同学習がより深まります。
- 作業学習における協同学習の一つの典型的なモデルとなる授業でした。今後はより深まるように御配慮をお願いします。

#### 授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- 教師の言葉がけで、生徒が動くこともありましたが、基本、教師の説明を聞いて生徒（3年生）主動で動いていたので良かったです。
- 「釉薬の溶き方」という作業種に絞ったことで授業にまとまりが出て、生徒も教えやすかったと思います。その反面、せっかく溶いたのに釉がけしないという、実用性には欠けていたかなと思いました。2, 3, 4h通して釉薬を溶いて、かけるまで授業でできるともっと実用性、効率性についても学習することができたのではないかと思います。
- 導入時に、目標が書かれた掲示板を提示していたのが良かったです。（時間が経過しても、視覚的に目標を確認できるため。）
- 掃除の前半に、洗い場に多くの生徒が集まってしまいました。MTの言葉がけがあって初めて、新聞紙の片付け、床掃除が始まりました。友達の掃除を手伝うことも大切ですが、まだ済んでいない片付け等がないか探すことも大切であることを伝えてあげることが必要かもしれないと思いました。
- 笑顔を意識させるためにMTが笑顔だったことが良かったです。
- 授業の展開が分かりやすく良かったです。

- ・1年生、3年生それぞれがめあてを意識できる教材や発問の仕方をしていたことが良かったです。
- ・授業の冒頭で、3つの目標のうち、一つ目の目標を書いた薄いブルーの紙を掲示し、目標を達成するためにどのようなことに気をつけるか考えさせ、生徒の発言をキーワードで板書したところは、授業の展開の仕方として大変要領よかったです。生徒からも的確な発言が出ていました。また、生徒が答えやすいように、「分からないときは？」と発問してから、「分からないので、・・・。」と投げかけて生徒が「教えてください。」と答えるなど、言い出しの文を途中まで言うことで、生徒が発言しやすい言語的な手がかりが用意されていて、ユニバーサルなコミュニケーション環境となっていて大変良かったです。
- ・一方、「教わる側にとって適切な態度は？」という発問に対して、生徒が「言葉遣い」と単語のみで発言したとき、授業者は「言葉使いを適切に使う。」とすぐに表現を補足して押さえましたが、このようなときは、「言葉遣いを・・・？」と投げかけ、生徒が文の形で言う習慣付けをしていく必要があります。あるいは、生徒の言語力の状況によっては、授業者が補足して表現した後、生徒と再度同じやりとりをして生徒から同じ表現が出るようにするとよいです。
- ・全体として授業の組み立てが分かりやすく、目標に対する取り組みのポイントを生徒から引き出し、それを確認させた上で、ペア学習に入り、まとめでは、目標一つずつ順に振り返りをさせ、最後のまとめも、「普段の作業や生活に生かす」という般化の方向付けが示されており、授業の組み立てがしっかりとしていること、生徒のよい発言や行動を的確に褒め、不適切な行動には注意をしており、良い授業となっていました。
- ・目標の説明の際に使用する教材は、しかるべき台の上に置いた方が良いです。

#### 【全員授業研究 振り返りレポート】

① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。

② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                    |     |           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----|-----------|
| 単元・題材名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 作業学習「1年生に教える」      | 生徒  | 産業科3年生徒8名 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                    | 場所  | 窯業室       |
| 日時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 平成28年7月15日（金）3・4校時 | 授業者 | 初山 小枝子    |
| <p>「①互恵的な相互依存関係」と「③個人としての責任」の設定にあたって、釉薬の溶き方の手順を黒板にまとめ、ポイントとなる点を空欄としたものを準備した。3年生が1年生にこの空欄部分を教え、それを1年生に発表させることで手順の文章を完成させることを伝えた。その結果、3年生は手順のポイントを忘れずに1年生に教えることができ、1年生も空欄を埋めるために必要なことをメモすることができた。ペアの間でも教える（教わる）ポイントがはっきり分かったようであった。</p> <p>「②対面的なやりとり」のために1年生と3年生でのペアを作り、「④協同学習スキル」として、「相手と適切なやりとりをする」という目標を設定した。ペアの相手に教えるようにしたことによりやりとりをする相手が誰かはお互いに分かりやすくなった。やりとりの具体例を挙げて（笑顔、返事、言葉づかいなど）意識するように指導したが、もっと一人一人の実態にあった例を挙げ、「適切なやりとり」については個別に気をつける点を事前に挙げておくと、意識する点がより明確になったと考える。</p> <p>「⑤チームの振り返り」では「釉薬の溶き方」の穴埋めをワークシートに記入させた。ここで1年生が記入できないところを3年生が再度伝えることができ、手順のポイントを確認することができた。1つ目の目標「釉薬の溶き方を教える」（ポイントを伝える）については、手順の空欄を1年生が発表していく（教えたのは3年生）ことで黒板を埋めていき、全員が責任をもって教えた（教わった）ことで完成できた、という連帯感を与えることができた。</p> |                    |     |           |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2つ目の目標の「相手と適切なやりとりをする」については、相手の良かったところをワークシートに記入し、それをペアで伝え合うという活動を入れた。また、教師からもそれぞれのペアの良かった点を伝え、言葉による賞賛で達成感を感じさせることができた。</p> <p>3つ目の目標「仲間と協力して、片付け・掃除をする」については、協力するためにどんな行動をしたのかをワークシートに記入させ、テーブルごとのグループ内で共有し、代表者に発表させたが、作業中にグループでの活動はなかったため、実際にその行動をしていたかは定かではなかった。また生徒16名に対しては洗い場のスペースが狭く、片付け・掃除の動きがスムーズではなかったので改善が必要であった。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## (2) 農業科

### 「農業科作業学習」(3学年)授業略案

|         |                                                                                                                                 |     |                           |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------------------|
| 単元・題材名  | シクラメンの管理作業(5)                                                                                                                   | 生徒  | 農業科3年 8名                  |
|         |                                                                                                                                 | 場所  | 温室                        |
| 日時      | 平成28年11月29日(火) 5～6校時                                                                                                            | 指導者 | MT:小原 政住<br>ST:住谷 亮 近藤 千晶 |
| 単元の全体目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>シクラメンの枯れ葉取り、葉組、灌水を出来るようになる。</li> <li>手先を使う作業になればペアで確認し合い、チームワークを高めることができる。</li> </ul>    |     |                           |
| 本時の目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>シクラメンの管理作業ができる。</li> <li>道具を使い作業が出来る。</li> <li>仲間と話し合い、協力・確認をして作業に取り組むことができる。</li> </ul> |     |                           |

| 過程<br>時間  | 学習活動                                           | 生徒の活動                                                                   | 教師の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 教材・教具                      |
|-----------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 導入<br>5分  | 挨拶<br><br>前時の復習<br><br><br><br>本時の学習内容<br>について | ○農業科3年の日直の挨拶をする。<br>○本時の説明を聞く。                                          | ○ <b>前時の復習をする。</b><br>○ <b>本時の説明をする。</b><br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt;<br/>           ・本時のタイムスケジュールを提示する。<br/>           (配慮①)<br/>           ①シクラメンの管理作業説明をする。<br/>           ②注意点の説明をする。         </div>                               | ピンセット<br>ジョウロ<br>バケツ<br>液肥 |
| 展開<br>85分 | ・シクラメンの<br>管理作業                                | ○ペアを決め道具の準備をする。<br><br><br><br><br><br>○シクラメンの葉組・枯れ葉取り・芽かき・灌水のやり方を確認する。 | ○ペア決めと道具の準備について伝える。<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           &lt;協同学習の要素や配慮事項&gt;<br/>           ・仲間と話し合いを行い、ペアを作る。<br/>           (②)<br/>           ・道具の準備でお互いに声を掛け合う。(②)<br/>           (④)         </div> ○ <b>シクラメンの管理方法を説明する。</b><br>①ピンセットを使い枯れ葉を取り、芽かきをし、灌水を行う。 | ピンセット<br>ジョウロ<br>バケツ<br>液肥 |

| 過程<br>時間  | 学習活動        | 生徒の活動                                                                                                                 | 教師の活動                                                                                                                                                                                                                                         | 教材・教具                      |
|-----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
|           |             | ○分からないことを質問する。                                                                                                        | ※枯れ葉や芽かきでの判断がつきやすいように配慮した説明をする。丁寧に行うように指導する。<br><br>○授業時間内に温室にあるシクラメンとミニシクラメンの手入れを終わらせる。<br>＜協同学習の要素や配慮事項＞<br>・全員で協力して、平台に載るシクラメンとミニシクラメンの管理作業を終わらせる。(①)                                                                                      |                            |
|           | ・シクラメンの管理作業 | ○ペアの目標を知る。<br><br>○お互いにペアで確認し合いながら管理作業する。<br><br>○教師に報告し確認してもらう。<br>○管理作業をする。<br>○作業を止める。<br>○管理作業の終わったシクラメンをペアで確認する。 | ○ペアの目標を伝える。<br>＜協同学習の要素や配慮事項＞<br>・一つ一つ丁寧に作業を進める。一人一人の役割を視覚的に提示する。(③、配慮①)<br><br>＜協同学習の要素や配慮事項＞<br>・お互いに確認し合いながら管理作業をする。(②、配慮②、配慮⑤)<br><br>○3鉢出来たら教師に確認をする。<br><br>○ <b>枯れ葉の取り忘れなどないように作業を行う。</b><br>○ <b>作業終了を伝える。</b><br>○ <b>管理作業の確認する。</b> | ピンセット<br>ジョウロ<br>バケツ<br>液肥 |
| 反省<br>10分 | ・振り返り       | ○ペアで話し合いを行い良かったこと、悪かったことを振り返る。                                                                                        | ○作業について振り返りを行う。<br>＜協同学習の要素や配慮事項＞<br>・目標達成、未達成について何がよかったか、悪かったかペアで振り返る。(⑤)<br><br>○ <b>取り組みの評価をする。</b>                                                                                                                                        |                            |

(凡例)「**前時の復習…。**」～授業の流れの骨子 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 (②) … 対面的なやり取り (③) … 個人としての責任

(④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑰) … 配慮事項については先述。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>授業者：小原 政住</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>協同学習（各要素）についての評価</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>① 互恵的な相互依存関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シクラメンの管理作業を各工程に分担するのではなく、一人当たりが担当するシクラメンの個数を決めて管理作業全般を全員で時間内に終わらせるという点に①の要素が見られました。</li> <li>・14：30までの活動の目標やノルマが分かりやすく提示されていた点が良かったです。目標が達成された状態がどうなるのかが分かりやすい課題設定だったため生徒は活動しやすかったと思います。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>② 対面的なやりとり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いをしながらペアを決める時間を作り、ペアで作業することで作業をどう進めるかなど話し合いながら行っていたので、良かったと思いました。</li> <li>・道具の準備の際にグループで声を掛け合って準備をしたり、作業中もグループの人とシクラメンの葉取り部分を確認したりと、②の要素を感じました。</li> <li>・ペアで活動することを徹底し、生徒もそれを理解していたように見えました。</li> <li>・ペアで互いに声を掛け合い、相談し、確認をお願いしていました。</li> <li>・ペアでシクラメンの葉取りの部分など、確認しながら話し合って管理作業を進めることができていたと思います。</li> <li>・教員の最終チェック以外は、生徒同士で確認し合うことで②が活動の中に取り入れられており、良かったと思います。</li> <li>・自然なやりとりでお互いに声を掛け合ったり、相談し合ったりするペアがいました。一方、あまりコミュニケーションがスムーズに行っていない（相談し合ったりするなど）ペアもいましたが、ペアの生徒相互のやりとりを深めるように働きかけた方が良かったと思います。</li> <li>・生徒同士のやりとりでも、どのような状態の芽を取るのかについての情報の共有が的確には行われてない様子でした。</li> <li>・ペアにしたことで、より作業工程に対して所々不安な点などを相談しながら作業を進めることができるようになっていた所が良かったと思いました。</li> <li>・全員で同じ作業をするため、対面的なやりとりが少ないのかと思っていましたが、グループの中で確認をし合ったり、声を掛け合いながら作業のやりとりをしたりする場面が多々見られました。小原先生が日頃から基礎的な知識を教えているからこそ、生徒同士で確認し合ったりができるのだと思いました。改めて、協同学習を行うにあたってスキル指導の大切さを感じました。</li> </ul> |
| <p>③ 個人としての責任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで個人として責任をもって作業を行っていたので、良かったと思いました。</li> <li>・自分に与えられたシクラメンについて責任をもって管理作業を進めていました。</li> <li>・シクラメンの管理方法をほぼ理解しており、どの花を摘んで良いのか自分で判断できていました。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>④ 協同学習スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協同学習の要素のうち、「④協同学習スキル」が具体的に明記されていて良かったです。</li> <li>・作業中に生徒同士のチェックする場面が設定されていて良かったと思いました。授業のまとめでは指導していましたが、不備があったときに、ペアの生徒同士で確認せずにできていない部分をやってあげているペアもありましたので、できていない部分を教え合うことを作業中随時指導できていればもっと良かったと思います。</li> <li>・ペアになりそれぞれが違った方法で作業を終わらせようと頑張っていたので、良かったと思いました。しかし、その方法が良いのか悪いのかを考える時間があれば、もっと良かったと思いました。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

- ・声掛けを積極的にしている生徒としていない生徒のばらつきが目立ちました。集まって聞いている教師からの全体の指示に対して、ほとんどの生徒が返事をしていたのが良かったです。しかし、何気なく教師が言っている全体に対する指示に返事がなかったのが気になりました。
- ・片付けの号令から、すぐに片付けに入れないペアがいました。報告して途中ですぐ止めれるように指導するのか、きりの良いところで止めるように指導するのか、どちらが最適なのか迷いますが、どちらにしても報告は必要ですので、報告するように指導していたので良かったと思います。
- ・生徒同士で様々な確認作業を行う場面において、ごくたまに生徒同士のやり取りの中で言葉がきついことがあったところが若干気になることがありました。

#### ⑤ チームの振り返り

- ・時間がなくてできませんでしたが、どう行えば早く手入れができるのかを全体で発表や感想ができていればもっと良かったと思いました。

#### 協同学習全体を通して

- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。
- ・管理作業の中で自分の与えられた仕事を的確に行う力や、協力して道具を準備する機会、その場の雰囲気に合わせて自分の言葉で仲間に伝える場面などがあり、日常生活に必要な力を使う場面設定が良かったと思いました。

#### 授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・シクラメンの配置が、赤、紫、ピンク、白の順に並べた理由を話題にしました。「白は見つけにくいので。」と理由を説明しましたが、生徒の反応を見て意味の理解を促す働きかけを途中で止めました。この場合は、意味を理解できるように補助説明をすることが必要です。
- ・ピンセットを使わないで芽かきをして、取らなくても良い芽を取ってしまった生徒がいましたが、その生徒への働きかけが指導者の説明だけでした。何が分かったのか、生徒に質問するなど、生徒が分かったことを言葉にして言う活動を入れた方がより着実に力になると思います。
- ・身だしなみ、安全面として帽子をかぶっている生徒とかぶっていない生徒がいたのが気になりました。
- ・生徒同士がコミュニケーションをとりながら準備できていたので良かったと思います。
- ・ミニシクラメンの手入れの方法の説明の仕方や演じ方が上手いと思いました。
- ・色の濃いミニシクラメンから徐々に難しい白色のミニシクラメンを手入れするように、計画が練られていたのが良かったです。
- ・3年生らしい落ち着いた雰囲気を感じました。
- ・シクラメンは、生徒と先生が愛情を込めて育てている花だと言うことを感じました。
- ・シクラメンの管理作業のやり方の確認の際に、例として実際に葉取りを行った生徒の判断に対してすぐにその判断を褒めていました。生徒が活動に自信を持って取り組めるよう配慮されている事が感じられました。
- ・生徒全員がシクラメンの管理全般を理解することができるよう、基本的な管理方法について、教師が作業に入る前に丁寧に生徒全員に確認をしていて良いなと思いました。作業に入った時に、生徒が作業内容をしっかりと理解しているので、より生徒のみでの学習がやりやすくなっていたように感じました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。

② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                     |       |           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-------|-----------|
| 単 元 ・ 題 材 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 総合「シクラメンの管理作業」      | 生 徒   | 農業科3年生徒8名 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                     | 場 所   | 温室        |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 平成28年11月29日（火）5.6校時 | 授 業 者 | 小原 政住     |
| <p>① 今回の授業研に取り込んだ協同学習の「5つの要素」であるが、2時間の時間内ですべて行う事は、時間が足りないと感じた。「5つの要素」をいれた略案を作成したが、授業を行った感じはすべて不発に終わった感じがした。研修部だより3号に、特に「④協同学習スキル」を意識してと記載されていたが、感触は悪かった。授業参観者アンケートを読んだ感想で1番感じた事は、自分が狙った「5つの要素」と参観された先生方のとらえた「5つの要素」が違った事が印象的だった。自分が狙った要素が違っていたと思った。良い勉強になった。</p> <p>② 「①互恵的な相互依存関係」では、ペアを作りノルマや終了時間を明確にする事が大切であると考えている。「②対面的なやりとり」において道具の準備や枯れ葉取りの確認があてはまると思う。生徒個々が理解していても、友達に伝える難しさを指導して行かないといけないと思った。</p> <p>「③個人の責任」は自分に与えられた内容（管理作業）を責任間を持ち、取り組む事が必要になってくると思う。それを植え付けるには時間がかかると再認識した。</p> <p>「④協同学習スキル」を授業に取り入れるには、まず自分が授業の内容・組立・時間配分を完璧にした上で発揮されたと感じた。「シクラメンの管理作業」は5回目の授業だった。おおまかに時間配分は計算できたので良かったと思う。初めて行う授業ではやりやすさは違うと感じた。改善点は、生徒への説明が的確ではなかった事であり、もう少し誰が聞いても分かりやすく説明や演示をする必要があると思った。教材研究をより一層深めて行こうと思う。</p> <p>「⑤チームの振り返り」には、最後に時間を取って行う事ができなかった。作業内容が多すぎたと考えられる。理想は作業を行いながら変更点や、やりやすさなどをペアで話しながら作業を行うことであると考えている。</p> <p>全体を通して、思う事はやはり事前に時間や内容の検討が大切であると思った。5回目の授業だったので授業時間は少し足りなかったですが、略案通りには進めることができた。教科指導における協同学習の難しさを実感した。</p> |                     |       |           |

## 第4章 協同学習の要素別活動事例集

### 1 事例集の構成

各教科・指導形態別に次の観点で授業実践を5要素に整理しました。

#### (1) 協同①ー「互恵的な相互依存関係」

「クラス（班）の全員が課題をクリアする。」「班で各自が自分の役割を果たし、協力して壁新聞を作る。」など、目標、活動、教材、役割分担、評価や成果（例えばでき上がった作品・製品の他、賞状、達成のご褒美シールなど）などについて互いに協力を必要とするような関係を具体的に書く。

#### (2) 協同②ー「対面的なやりとり」

仲間同士、援助したり、教え合ったり、議論したり、励ましたり、誉めたりし合うことで生徒がお互いの（学習の）成功を促進し合う機会を授業場面で設定する。

#### (3) 協同③ー「個人としての責任」

生徒一人一人には個人の責任があり、自分のやるべき役割を果たして個人目標に到達できるように、一人一人の活動や役割を設定する。

#### (4) 協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）

より質の高い協力と学習ができるように、授業で指導する社会的スキルと教科固有のスキルを明確にして設定する。

#### (5) 協同⑤ー「チームの振り返り」

どのように援助し合ったり、協力し合ったりしたらチームがうまくいったのかについて書く。

### 2 国語

#### 協同①ー「互恵的な相互依存関係」

- ・俳句を音読する際に、各自で割り当てられた箇所をリズムに合わせて、協力しながらスムーズに読み合わせる。
- ・敬語の一覧表を全員で確認し合い、表を完成させる。
- ・漢字の小テストの答えを一人一つ答えて全員で確認する。
- ・作成した個人の作文に発表して、グループで評価・評論を行い、良い点や改善点を交流する。
- ・コミュニケーションのタイプを3つに分類し、それぞれのグループから出た意見や違いを発表し合い、全員でその違いを確認する。
- ・自分の名前ではなくクラスメイトの名前の漢字の持つ意味を調べ合い、全体に発表する。
- ・グループでそれぞれの意見を出し合い、英語表現を協力して考え相手に伝える。（ALTの授業）
- ・チームで協力して単語を連想し黒板に書き出し、出し合った漢字の意味を確認する。
- ・グループで同音異義語の意味や例文を考えて問題を出し合う。

#### 協同②ー「対面的なやりとり」

- ・漢字のテストの答え合わせをペアで採点し合う。
- ・漢字の答え合わせの際に生徒が黒板に答えを書いて、間違っているところや読みにくい字などを指摘し合う。
- ・自分の書いた作文を学級内で発表し、聞き手は感想を伝える。
- ・出された問題についてペアで話し合いをして正解を共に考える学習を行う。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>協同③ー「個人としての責任」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアのプリントを丸付けする際に相手に分かるように丁寧な字でプリントに答えを記入する。</li> <li>・答えが全員に分かるように、丁寧に大きな字で黒板に記入する。</li> <li>・作文や意見発表など人の話を聞いてから学習をするような場面で、発表する側と聞く側に分かれるような学習を行う。（オリエンテーション的な学習も含む）</li> <li>・聞き手や読み手が分かりやすい文章にするために、句読点や文章のつながりを考える。</li> <li>・仲間の作文発表を聞くだけではなく、一言ずつ感想を述べる時間を設定する。</li> </ul>                |
| <b>協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）</b>                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・作文や意見発表など人の話を聞いてから学習をするような場面で、発表する側は、相手に聞いてもらいやすい表現や声の大きさを発表する。【コミュニケーションスキル】</li> <li>・作文や意見発表など人の話を聞いてから学習をするような場面で、聞く側はその発表を聞いて評価したり、自分の発表と比較して改善点をまとめたりして次の発表に生かす。【考えるスキル】</li> <li>・漢字の成り立ちを調べ学習の中で、グループで相談する時に、主張だけでなく仲間の意見にも耳を傾けながら必ず全員が意見を述べる機会を設定して話し合いをさせる。【コミュニケーションスキル】</li> </ul> |
| <b>協同⑤ー「チームの振り返り」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の一覧表を作って掲示し、自分達で敬語の使い方を日常的に振り返る環境を作る。</li> <li>・取り組んだ学習を振り返って、反省したことを今後に生かす学習を行う。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                 |

### 3 数学

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>協同①ー「互恵的な相互依存関係」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間授業の冒頭で行うフラッシュ計算を全員が正解するようにする。</li> <li>・行事予定表から日数を数えて、「〇〇日後」という表を全員で協力して完成させる。</li> <li>・グループで長さを測り、測った長さを足して2mにする。</li> <li>・ペアで違う方法で物の長さを測り、1つの表を完成させる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <b>協同②ー「対面的なやりとり」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュ計算を全員で正解するために、解く順番を話し合って決める。</li> <li>・行事予定表から日数を数えて、「〇〇日後」という表を作るために、1学期、2学期、3学期の担当を話し合いで決める。</li> <li>・行事予定表から日数を数えて、「〇〇日後」という表を作るために必要な作業分担を話し合いで決める。</li> <li>・グループで長さを測り測った長さを足して2mにするために、自分の測ったものと長さをグループの人に伝える。</li> <li>・ペアで違う方法で物の長さを測るときに、相手にタイルの数を確認してもらったり、次に行う作業を教えてもらう。</li> <li>・模擬での買い物学習で、レジ担当2名と客担当2名で会計のやりとりをする。その際、ペアの生徒と話し合いながら買う物のお金の支払いをしたり、お釣りの計算をしたりする。</li> <li>・模擬での買い物学習で、小銭を減らす支払い方法をグループ内で話し合ってから、全体で方法について確認し、実際に支払いをして小銭が少なくなるか確認する。</li> </ul> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>協同③ー「個人としての責任」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュ計算を一人10問解く。</li> <li>・行事予定表から日数を数えて、「〇〇日後」の表を作るための担当と役割を行う。</li> <li>・グループで長さを測り、測った長さを足して2mにするために、必ず一人一つ長さを測る。</li> <li>・ペアで違う方法で物の長さを測るときに、タイルで長さを表す人と紙テープで長さを表す人に分かれる。</li> <li>・模擬での買い物学習で、レジ担当と客担当で分かれて、レジ担当はお釣りの計算、客担当は支払うお金の計算を行う。</li> <li>・模擬での買い物学習で、小銭を減らす支払い方法を一人一つ以上考える。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p><b>協同④ー「協同学習スキル」(考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュ計算を行う学習での話し合いでは、聞かれたことに答えたり、相手の立場に立って提案するように促す。【コミュニケーションスキル】【集団活動スキル】</li> <li>・行事予定表から日数を数えて、「〇〇日後」の表を作る学習での話し合いでは、自分から発言することや分からないことは仲間に質問することを促す。【コミュニケーションスキル】【集団活動スキル】</li> <li>・グループで長さを測り、測った長さを足して2mにする学習で、グループの人から報告を受けたときには、返事や返答をすることを確認する。また、報告するときには相手に聞こえる声で分かりやすく伝えることを意識させる。【コミュニケーションスキル】</li> <li>・ペアで違う方法で物の長さを測るときに、分からないことや確認したいことなどを自分から質問する。また、聞かれたことに対して、相手に分かりやすく身振り手振りをしたり、ゆっくり話したりするなど伝えるための工夫をする。【コミュニケーションスキル】</li> <li>・模擬での買い物学習で丁寧な言葉遣いをすることを意識させる。【コミュニケーションスキル】</li> </ul> |
| <p><b>協同⑤ー「チームの振り返り」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで長さを測り、測った長さを足して2mにする学習では、長さを2mに近づけるためにはどのような工夫ができたか、グループ内での連絡・報告はどのように工夫するか、素早く長さを測るためには、どのように測ることができるかなどを個人で考えた後、グループ内で話し合い次回の学習につなげる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## 4 体育

|                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>協同①ー「互恵的な相互依存関係」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭競技(学年種目)で勝つための作戦会議を実施する。</li> <li>・シットイングバレーボールを行う前に、ポジションとサーブ順を決めて、個々の力を発揮しやすくするための作戦会議を行う。</li> <li>・シットイングバレーボールやサッカーの球技で勝利に向けて話し合いをし、役割を決める。</li> <li>・他の種目同様、勝利に向けて、チーム内で協力し合って作戦を練る。</li> </ul> |
| <p><b>協同②ー「対面的なやりとり」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでストレッチを行い、適切な力の入れ方を考え伝えあう。</li> <li>・ラジオ体操でペアになり、動作のポイントや修正すべき所を教え合う。</li> <li>・水泳でバタ足の仕方やどのように力を入れると良いかを教え合う。</li> <li>・水泳で複数名でグループ編成を行い、それぞれの泳ぎ方を水中で見てもらい、良い点や改善点を(気になった点)をお互いに確認し合う。</li> </ul>       |

- ・体力測定でソフトボールの測定を生徒が担当し、計測結果を伝える。
- ・ソフトボールでペアでキャッチボールを実施し、投げ方をアドバイスし合う。
- ・シットイングバレーボールやサッカーの球技で、名前を呼んでからパスを行う。
- ・バスケットボールで仲間がプレーしているときに、守備についた方が良いところや攻めやすい場所を伝え合う。

#### 協同③ー「個人としての責任」

- ・シットイングバレーで、試合のないチームが線審や得点板の役割を行い、主審に伝える。
- ・バッティング練習では、個々の役割（ボールをあげる人、打つ人、守る人、送球を受ける人等）明確にして行う。
- ・生徒一人一人が競技に必要な用具を責任を持って時間内に用意する。
- ・ペアで水泳記録の計時係を交代して行う。
- ・サッカーでオフェンス・ディフェンスなど、役割を行う。
- ・ルールや約束の目的を理解し守ることにより、自分の役割を果たす。
- ・バスケットボールで個人の役割を明確にし、動き方を提示する。

#### 協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）

- ・学習集団を2人から3人、3人から6人と人数を増やすことで話し合う声の大きさや情報共有の仕方を考え、行動する活動を設定する。【コミュニケーションスキル】
- ・ワークシートに記入しながら、作戦会議、反省、次の試合の仕方を考える。【考えるスキル】
- ・協力して道具を準備したり、片付けたりする。【集団行動スキル】
- ・ソフトボールに必要な用具一式の準備を生徒だけで行う。【集団行動スキル】
- ・水泳でペアになって相手のバタ足の様子を見て、修正すべき点を伝える。【コミュニケーションスキル】
- ・ソフトボールなどのバッティング時に足の運びや身体のひねり、視線などを経験者が伝える。【コミュニケーションスキル】
- ・課題を振り返るだけではなく、次回に向けての個人の動きや守備位置について考える。【考えるスキル】
- ・クロスカントリースキーで、用具の着脱をするときに困っている生徒がいるときに声をかける。【コミュニケーションスキル】

#### 協同⑤ー「チームの振り返り」

- ・サッカーでチームごとに試合中の守備や攻撃の振り返りを行い、ワークシートに記入する。その結果から次の試合に改善できることを分析する。
- ・効率良く練習するためにどのような動きをすれば良いのかを考える。
- ・視覚的教材（ビデオカメラ、テレビ）を使用し、試合の様子を振り返り、効果的な戦術について話し合う。

## 5 音楽・美術

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <b>協同①ー「互恵的な相互依存関係」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| <b>音楽</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・男子パート、女子パートの二部に分かれて合唱を行い、同じパートの相手と音程やテンポをそろえて歌うことを目標に活動を行う。</li><li>・全員が歌詞を覚えて歌うことを目指す。（どこまで覚えたか、少人数のグループごとに歌を発表して成果を確認する）</li><li>・各自でダンスを考えた後、グループになって考えたダンスについて話し合い、一つのダンスを完成させて発表する。</li><li>・学年で分担してパフォーマンスを考え、全体で一つのパフォーマンスを作り上げる。</li></ul>                                                                                                                                       |  |
| <b>美術</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ペアで墨絵の構成を考え、役割を分担して1枚の絵を協力して完成させる。</li><li>・4人グループで一人一つ担当を決め、1枚の絵を協力して完成させる。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
| <b>協同②ー「対面的なやりとり」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |
| <b>音楽</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・男女それぞれのパートが発表し、相手のパートに対して良かった点や改善すべき点について感想を伝え合う。</li><li>・男女パートの中でさらにグループを作り、お互いのグループの歌声を発表し合うことで自分のグループに足りない部分を確認する。</li><li>・ダンスを考える際に、最初に一人一人がアイディアを考え、考えた意見を仲間同士で発表して、良い点や改善すべき点について議論し合う。</li><li>・歌唱の際に、強弱などどのような表現方法が望ましいかグループで話し合い、発表して互いのグループの強弱に対する良い所を誉め合う。</li><li>・ダンスが得意な生徒、ダンスが苦手な生徒でペアになって、ダンスが得意な生徒が苦手な生徒に動きを教えたり、励ましたりする。</li><li>・学年で輪になってパフォーマンスの構成を話し合う。</li></ul> |  |
| <b>美術</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の作品について全員に説明をし、説明を聞いていた仲間が質問や感想を言う。<br/>（質問や感想は一人一回は必ず発言するというルールを取り入れる）</li><li>・墨絵のテーマや構成について互いに話し合う。</li><li>・グループでどの道具を使って描くか互いに話し合う。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                     |  |
| <b>協同③ー「個人としての責任」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |
| <b>音楽</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・少人数グループで合唱練習をして、一人一人が歌っていることを確認できるような場面を設定する。</li><li>・創作ラップでは、一人1フレーズ歌詞を考え、必ず一回出番が来るような仕方で発表を行う。</li><li>・創作ダンスでは、グループで発表した後に、一人一人の動きはどうだったか感想を聞く場面を設定する。</li><li>・パフォーマンスの練習の際に、動きを理解していない仲間を確認し、仲間同士が個別に教えあうことで個人の責任としての意識を高める。</li></ul>                                                                                                                                             |  |
| <b>美術</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の作品を完成させた後、一人ずつ前に出て説明する。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・木や空など、自分の描く担当箇所を決めて、責任を持って担当箇所を描きあげる。</li> <li>・ローラーやぼかし網、ストローなどにインクをつけて、担当部分を描きあげる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <b>協同④ー「協同学習スキル」(考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル)</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <b>音楽</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一定のリズムやテンポを保つために、体の動きや、テンポの取り方を見る。【集団活動スキル】</li> <li>・相手の歌声を聴いて、音程を合わせる。【集団活動スキル】</li> <li>・相手の身体表現を見ることで、テンポの速さやリズムの感じ方、拍子に合わせた体の動かし方について、自分の表現の参考にする。【考えるスキル】</li> <li>・一人ずつ順に声を重ね合わせ、音量や音の響きが変わることを感じさせる。【考えるスキル】</li> <li>・パフォーマンスの練習をする際に、声を出して拍をカウントする。【集団活動スキル】</li> </ul> <b>美術</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を展示する際の題材の題字について、見栄えがするデザインや色の使い方、字体についてグループで考えて制作する。考える際には、字体を考える生徒、配色を考える生徒と役割分担をして制作する。【考えるスキル】</li> <li>・仲間の担当箇所のバランスを考えながら、自分の描く担当箇所の墨の濃い色や薄い色の使い分けについて考える。【考えるスキル】</li> <li>・教師の手本を参考に、道具の使い方を確かめる。【考えるスキル】</li> </ul> |
| <b>協同⑤ー「チームの振り返り」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>音楽</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達の合唱やダンスについて、全体のハーモニーや声の音量、リズムや音程、テンポについてパートごとや全体で項目ごとに振り返りを行った。その結果、声量が上がり、より音程を合わせようと生徒が意識を高めた。</li> <li>・学年ごとにダンスを発表して、他学年同士でダンスの良い所や改善箇所を伝えあう。</li> </ul> <b>美術</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した作品や、構成を考える際の話し合いの仕方について、ワークシートを用いて振り返りを行った。</li> <li>・協力できた部分、話し合いが上手にできた部分について4人グループで振り返る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                       |

## 6 生活単元学習

①②③～学年

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>協同①ー「互恵的な相互依存関係」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の高校生と交流する学習で様々な係で活動した内容、結果を模造紙にまとめ完成させる。①</li> <li>・校外学習で使用するしおりを係ごとの役割を果たし協力して完成させる。①</li> <li>・班で作業分担して、各自が自分の役割を果たし壁新聞を完成させる。①</li> <li>・ワークシートに書かれている課題をすべて埋めるために教科書を使用して、ページ毎に役割を分担して調べ学習を行う。①</li> <li>・男女ともに実態別に分かれ、飲酒や喫煙、薬物に対する話題や知識を共有しまとめる。②</li> <li>・男女の違いについて知るために、ペアとなり意見を言い合い、ワークシートの空欄をすべて埋める。②</li> <li>・異性との接し方やデートDVについて学習したことをグループに分かれ話し合い、画用紙にまとめ話し合った内容を他グループに発表する。③</li> <li>・職場見学後感想を一人一つあげ、模造紙に系統別に(すごかったこと、不安なことなど)感想を分類したものを完成させる。①</li> </ul> |

- ・施設見学で見学してきた作業所について、グループに分かれ「事業所の規模」「従業員の様子」「見学してきた感想」の3項目を話し合い画用紙にまとめ完成させる。①
- ・施設見学先の職員が話していた「働くために必要な力」について複数テーマを設定して、興味をもったテーマごとにグループに分かれ話し合い意見をまとめる。②
- ・施設見学で見学してきたことを読み手を意識してまとめ完成させる。(※後輩(1年生)が読んでわかるような内容、書き方に気をつける。)②
- ・宿泊研修の事前学習で、グループごとに別れグループメンバー全員で話し合って自主研修の行程を考える。(見学先やルート、使用する交通機関など)②
- ・宿泊研修で見学先について、他学年が見てどのような活動を行ってきたのかが分かるように学んだことを壁新聞にまとめる。②
- ・見学旅行後に自主研修でのグループごとに見学した場所についての紹介、感想を話し合い模造紙にまとめ完成させる。③
- ・スマートフォンを使用したインターネットの危険性を学習した内容を基に、トラブルの解決策や巻き込まれないためにすべきことを話し合う。また、話し合った内容をホワイトボードに書きまとめ、完成させ他のグループに発表する。③
- ・ペアに分かれ、パソコンを使用して1枚の学校祭案内のポスターを完成させる。①
- ・学校祭の劇で場面毎にグループに分かれ、話し合いながら練習を行い全員が演技を覚える。①②③
- ・学校祭の劇練習で演技を行ったグループごとに分かれ、見どころを協力して模造紙にまとめ完成させる①
- ・学校祭の劇で行うダンス練習で、全員のタイミングが揃うまで声をかけ合いながら協力して練習を行う。②
- ・学校祭で披露するダンスの振り付けを全員で協力して考える。②
- ・調理実習に向けてグループで決めた調理の際の役割をそれぞれ果たして、協力して料理を完成させる。③
- ・五大栄養素を含んだ料理の献立をグループごとに協力して考える。②
- ・調理実習に向けて、献立をグループやクラス全員で考えまとめる。③
- ・調理をグループやクラス全員で協力して成功させる。③
- ・調理実習後に、各グループの成果や反省を行い役割分担をして模造紙にまとめ全体の前で発表する。③
- ・会話する相手が心温まる言葉をグループで意見を出し合い2つ以上考えまとめる。①
- ・相手に良い印象を与える話し方についてグループで意見を出し合い考えまとめる。①
- ・卒業生からの進路講話で、仕事面と生活面の質問と質問者を各学級内で意見を出し合って決定する。③
- ・卒業生が失敗した事例や実体験について、一般就労グループと福祉的就労グループに分け、自分達が同じ失敗を繰り返させないために結論、答えを出す。③
- ・卒業後に向けて、仕事面と生活面の悩みについて一人一人意見を出し合い、グループ全員が解決策を導き出す。③
- ・卒業生を送る会の出し物で歌う曲の歌詞を全員で覚える。①
- ・卒業生を送る会に向けて、各グループが協力して、ダンスパートの振りを完成させる。②
- ・卒業生を送る会の出し物で行う、セリフや動きを全員で協力して覚える。③

## 協同②ー「対面的なやりとり」

- ・外国の高校生との交流に備え、ワークシートの例を参考に自己紹介の練習をペアで行い、分からないところを教え合う。①

- 外国の高校生との交流学习で、係ごとに集まりワークシートや写真で振り返りながら、自分の目標を達成できたか話し合い、他の係と発表し合う。①
- 学習内容をまとめた模造紙を基に発表し、良い部分などを意見交換する。①
- 係活動ではリーダーを決めて、リーダーを中心にどのような仕事があるのか意見を出し合う。①
- 男女のグループに分かれて、異性について意見を出し合う。①
- 男女ともに実態別に分かれ、性に関する話題や悩みを共有し合う。①
- 現場実習先へ事前訪問に行く際の質問を決める時、設定時間や必要な質問をグループ全員で話し合って検討をする。①
- 宿泊研修の自主研修の行程について、メンバーがそれぞれ意見を発表し合う。その後、「与えられたテーマに沿っているか」「制限時間内にめぐることができるのか」など全員で意見を出し合う。②
- 宿泊研修の自主研修で学んだことについて壁新聞を作成する学習で、記録したメモや覚えていることを基に話し合う。②
- 見学旅行の学級の研修や、自主研修のグループ活動で行き先について意見を出し合う。③
- 見学旅行で行く研修先について、ペアで話し合って協力しながら調べシートにまとめる。③
- 男女共に実態別に分かれ、性に関する話題や悩みを共有し合う。②
- デートDVについて考え、適切な異性との関わり方について話し合う。③
- スマートフォンを使ったインターネットの危険性について事例をいくつか上げ、グループで対応策を話し合う。③
- 社会や学校の決まりを確認して、自分の課題や実態を照らし合わせてグループ内で話し合う。③
- 自分の進路に対する不安に思うことをグループ内で発表し、その不安に思うことについて助言し合う。③
- 卒業生から前提実習や、就労について話を聞く際に座席が隣の仲間と出た意見を確認し合う。③
- 卒業生からの話を聞きメモを取る際に、仲間とメモの取り残しが無いか確認し合う。③
- 前提実習の決意発表に向けて、話す内容が覚えられているかペアで確認し合う。③
- 前提実習の決意発表会に向けて発表する内容を暗記できているかペアで確認し合う。③
- 衣服のシミ抜きをするときに、上手に落とすためにはどうすればよいかグループで話し合う。①
- グループの代表者が、落ちたシミと落ちなかったシミを発表し合い、グループごとの実践結果を知る。①
- 衣服の畳み方について、綺麗なままで保管しておくには、どのようにしておかなければならないかグループで話し合い実践する。①
- 学校祭の劇練習で、どのように演技をしたら観客が見やすく伝わるかグループで話し合う。①
- パソコンを使用して学校祭の案内のポスターを作成するときに、複数の仕事を誰が担当するのか話し合って決める。①
- パソコンを使用して学校祭の案内のポスターを作成するときに、デザインや色などで迷ったらペアで相談し合う。①
- 施設見学先へ各自が質問を考え、符箋に書いて意見を出し合い適切な質問を考え話し合う。①
- 学校祭の劇練習で、自分や仲間のせりふや気持ち（与えられた役割）を観客に分かりやすく伝えるための手段（声の出し方、動き、表情など）を考え話し合う。②
- 学校祭の劇で場面ごとにペアやグループに分かれ、劇のセリフや演技を正しくできているか確認し合う。③
- 学校祭の劇練習で他の人の演技を見て、良かった点や改善点を指摘し合う。③
- グループで食材に含まれる栄養素を話し合いながら正しく分類する。①

- ・調理実習の事前学習で、調理をする際の役割分担をグループで話し合って決める。①
- ・調理実習で包丁の扱い方や火加減の調節法について仲間に教え合う。②
- ・ペアやグループで調理器具の確認や、調理内容を確認し合う。③
- ・グループに分かれて、相手が心地よくなる話し方や、聞き方について意見を出し合う。①
- ・教師が会話のデモンストレーションを見せ、良い点や悪い点についてグループで話し合う。①
- ・お洒落と身だしなみについて自分の意見を持ち寄り、違いについて話し合う。②
- ・髪の毛のまとめ方について知っていることを持ち寄り、実演したり、教え合ったりする。②
- ・グループごとに3年生のうちに身につけなければいけない力を話し合い、明確にした上で、各グループの意見を発表し合い、共有する。②
- ・卒業生の事例や実体験を踏まえ、どうすれば良いかを考え話し合い発表し合う。③
- ・近い分野の就労先でグループに分かれ、卒業後の仕事面生活面の不安に思うことについてアドバイスし合う。③
- ・自分達の就労先について知っている情報を教え合う。③
- ・この1年間で成長できたことや改善点をグループで発表し合う。①
- ・卒業生を送る会に向けて、合唱の担当パートごとに集まって練習して、改善すべき点について話し合う。①
- ・卒業生を送る会の出し物について、ペアやグループで練習し確認をする。③
- ・他の人やグループの様子を見て、良かった点や改善点を指摘し合う。③
- ・卒業式の「喜びの言葉」の練習をペアで行い、台詞の暗記や声の大きさが適切か確認し合う。③

### 協同③ー「個人としての責任」

- ・学級内で担当を決め、各自が自分の役割を果たすことで壁新聞を完成させる。①
- ・ピリカアウトドア、バーンサイド高校との交流ともに、一人一人に役割を決めて自分で決めた目標を意識して活動する。①
- ・リーダー、書記、発表する人など一人一人の役割を決めて学習する。①
- ・グループで意見交換をするために一人一人同性・異性の良いところについて考える。①
- ・あらかじめ担当を決めておき、現場実習訪問先で一人一つ以上質問をする。①
- ・あらかじめ担当を決めておき、施設見学先で一人一つ以上質問をする。①
- ・宿泊研修で訪れる見学先について壁新聞にまとめる学習で、仲間の学習が深まるように自分の担当分野を調べる。②
- ・レク係や保健係など、係の果たすべき役割を踏まえて当日の係活動の内容について考え、そのために必要なプリントなどを各自作成する。②
- ・施設見学で学んできた内容をまとめる活動で、記録してきたメモや覚えていることをもとに仲間で話し合い役割を決める。②
- ・進路学習の一年間の流れを確認し、自分の進路について自ら考え発表する。③
- ・見学旅行の学習で、生徒の係活動を設定して各自与えられた役割を果たす。③
- ・見学旅行の自主研修での活動のまとめを模造紙に記入する際に、自分が何をしなければならないのかを明確にし、個人の役割を果たす。③
- ・学級や自主研修のグループで研修のテーマを設定し、そのテーマにあった研修を考え、調べ学習の役割分担を設定する。③
- ・異性との接し方やデートDVについて学習したことをグループでの話し合いの前に、自分の考えをワークシートにまとめる。③

- ・異性との接し方やデートDVについて、画用紙に記入する際に、自分が何をしなければならないのかを明確にし、個人の役割を果たす。③
- ・グループで話し合いをする際に必ず一つは自分の意見を述べるという場面を設定する。③
- ・話し合い活動のときに自分の意見を必ず一つは発表する。③
- ・模造紙にまとめる際に、自分が何をしなければならないのかを明確にし、個人の役割を果たす。③
- ・卒業生からの進路講話で質問する内容を一人一つ決め役割を与える。③
- ・前提実習決意発表会に向けて、発表内容について各自事前の準備をする。③
- ・学校祭の劇で一人一人が配役を知ったり、目標を考えたりして、自分のすべきことを明確にして活動する。①
- ・学校祭の案内のポスターをパソコンで作成する学習で、二人がそれぞれ自分の担当を責任持って行うことで、仲間との協力とポスター制作の目標を達成できるようにする。①
- ・学校祭の学習で個人に与えられた配役を理解するための時間を設け、担当する役を演じる。（配役の人柄や見どころなどを記入するワークシートを用意する。）②
- ・学校祭の劇で使用するバック絵を作成し、演じる以外にも劇を作り上げていく役割があることを伝える。②
- ・学校祭の劇練習で実態に合わせて台詞の順番が生徒に分かりやすいように配役を構成して役割を与える。（双子や親子、夫婦など）②
- ・学校祭の劇練習で全員がセリフや演技を覚えるために、自分の役割として暗記したり演技を覚えたりして、仲間と協力し合って発表する。③
- ・シミ抜きの種類をいくつか用意し、担当を決めて綺麗に落とせるように、数種類の道具を使って実践する。実践後、どこまでシミが落ちたのかを報告し合う。①
- ・一カ月に係る光熱費についてグループで役割を決め、調べる。②
- ・調理実習で自分の役割分担を確認して調理する。①
- ・調理実習の事前学習でメニューを見ながら調理の役割を考える。②
- ・調理をするときに、切る、煮る、焼く、盛り付ける、洗うなど全員に役割を与え、自分の役割に責任を持たせる。③
- ・グループで出した意見をホワイトボードに書く人や発表する人をそれぞれ決める。①
- ・一人一人がクラスメートの長所を考え、プリントに記入する。①
- ・活動の際は、役割分担をそれぞれ決めて、協力して作業をする。①
- ・卒業生に向けて、一人一人が感謝の気持ちなどのメッセージを書く。②
- ・グループ学習の際に、意見を出す、まとめる、発表するなど自全員に役割を与え、自分の役割に責任を持たせる。③
- ・卒業後の仕事、生活面で不安に思うことについてアドバイスし合う際に、必ず一人一つアドバイスをする。③
- ・卒業生を送る会での出し物の流れ（台詞なども含む）を各自で覚える。③
- ・卒業式の「喜びの言葉」で自分の担当する文章を一人一人が考える。③

#### 協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）

- ・学校祭の案内のポスターをパソコンで作成する学習で、分からないことがあるときには、まず、自分で調べ、それでも分からないときにはペアに聞く。①【コミュニケーションスキル】
- ・作業が終了するごとに、教師に報告をする。①【コミュニケーションスキル】
- ・パソコンで学校祭の案内のポスターを作成するときに敬語を使うことで、仕事としてのコミュニケーション力の向上を図る。①【コミュニケーションスキル】

- ・パソコンの操作について教師に質問をするときには、教師を呼ばずに自分から近くへ行き質問する。①【コミュニケーションスキル】
- ・学校祭の劇のグループで発表を行う際は発表者の方を見て話を聞くよう意識させる。①【集団活動スキル】
- ・学校祭の劇の練習する時間が限られているので、少しでも長く練習時間を確保するため「移動する時間を早くしよう」などグループで声を掛け合う。①【集団活動スキル・コミュニケーションスキル】
- ・学校祭の劇の練習で台詞を見て、自然な言い回しや動きを考える。②【考えるスキル】
- ・演劇活動（表現活動）を通して現在の自分の課題に気づき、改善するための努力を行う。（声の出し方、台詞を言わないときの演技、気持ちを伝える動き、人任せの態度など）②【考えるスキル】
- ・学校祭の劇の練習で他のグループの演技を見ているときの座っている姿勢を意識する。③【集団活動スキル】
- ・今金町についてのオリエンテーションで「役場」、「図書館」、「体育館」で疑問に思ったことをそれぞれ質問する。  
①【コミュニケーションスキル】
- ・発表するときは、声の大きさを意識しながら発表を行う。①【コミュニケーションスキル】
- ・グループごとに意見を発表し合う際、相手の意見を否定することなくメモにまとめる。①【集団活動スキル】
- ・自由に意見を出し合い、相手の意見を批判しない。（ブレインストーミング）①【コミュニケーションスキル】
- ・グループの話し合いの報告を聞いて、気になったことや質問を行い、話し合いの内容を全員で深める。②【集団活動スキル】
- ・他の人の気持ちを予想する。②【集団活動スキル】
- ・実際に起こった事件の事例に対して、相手の立場になって考える。②【集団活動スキル】
- ・学んだことを普通の生活に関連付けて考える。②【考えるスキル】
- ・事業所ごとに必要な「働く力」に着目しながら見学をする。②【考えるスキル】
- ・江差福祉会以外で進路を考えている生徒は、自分の進路先と比較しながら見学をする。（職場の雰囲気、従業員の様子など）②【考えるスキル】
- ・宿泊研修の自主研修についてグループ内で行きたい見学先について意見を自由に出し合う。②【コミュニケーションスキル】
- ・性についての話題に対し、真剣に聞く。②【集団活動スキル】
- ・見学旅行の自主研修のまとめの発表を聞く際に、正しい姿勢や相手を見て話を聞くことを意識させる。③【集団活動スキル】
- ・講話などの活動を通し、話を聞く際の正しい姿勢や態度について触れ、意識させる。③【集団活動スキル】
- ・相手が抱えている不安を否定せずに話し合いを進める。③【コミュニケーションスキル】
- ・自由に意見を出し合い、相手の意見を否定しない。③【コミュニケーションスキル】
- ・卒業生に発表する際に大きな声で発表をする。（聞く姿勢）③【コミュニケーションスキル】
- ・相手の話を聞く姿勢（傾き等）を意識させる。③【集団活動スキル】
- ・発表者を否定せず尊重する。③【コミュニケーションスキル】
- ・質問検討時に自由にアイデアを出し合い、相手の意見を批判しない。①【コミュニケーションスキル】
- ・割り当たった仕事がまだ終わっていないメンバーのことを手伝う。①【集団活動スキル】
- ・話し合った内容をまとめた模造紙を基にしたグループごとの発表では、発表しているグループの方に体を向ける。  
①【集団活動スキル】
- ・グループで意見を発表し合う際に、相手の意見を否定せず共感する。①【コミュニケーションスキル】
- ・グループの発表のときは、発表する人の方を見て話を聞く。①【集団活動スキル】

- ・ 他人からの見られた方と自己判断という観点を取り入れておしゃれと身だしなみの違いについて話し合う。②【考えるスキル・コミュニケーションスキル】
- ・ 前単元での学習を生かし、話し合いの中で話を進める人、サポートする人、全員が意見を言う、意見を聞くということを意識して話し合いをすることができる。②【集団活動スキル】
- ・ クラスやグループでまとめた意見を聞く際に座っている姿勢を意識する。③【集団活動スキル】
- ・ 卒業後の仕事、生活面で不安に思うことについてアドバイスとして自分の考えを打ち明ける。③【コミュニケーションスキル】
- ・ 仕事、生活面で不安に思うことについて相談する。③【コミュニケーションスキル】
- ・ 仲間の仕事、生活面で不安に思うことについて相談に乗る。③【コミュニケーションスキル】
- ・ 他の人や他のグループの発表を見ているときの姿勢を意識する。③【集団活動スキル】

#### 協同⑤ー「チームの振り返り」

- ・ 校外学習の活動内容を分割した模造紙に、担当する部分を各係で決めて話し合っまとめる。分割した模造紙を一つに合わせ各係で発表後よりよい方法は何かあったか振り返る。①
- ・ 分かったことは青の付箋に、疑問に思ったことは赤の付箋に、感想は黄色の付箋にそれぞれ記入し、項目について色分けをして振り返りを行う。①
- ・ グループ内で話し合った内容を全体の前で発表して、その発表の仕方（話す速さ、相手への伝わり方）がどうだったか振り返る。③
- ・ 映像を見て、自分の考えた目標に対しての反省をグループで話し合う。①
- ・ パソコンで学校祭の案内のポスターをペアで協力して作成した際、ワークシートに技術的な難易度や仲間との協力などを選択形式で振り返る。①
- ・ 学校祭の劇練習で、仲間同士で自分達の演技を鑑賞し、さらに向上させるための改善点(声の出し方、動き、表情など)について意見を出し合う。②
- ・ 学校祭の劇練習で自分の演技を見て、さらに向上させるための改善点を考える。②
- ・ 学校祭の劇練習で自分が所属するグループの表現力（観客に伝えたいこと）を高めるための方法を考える。②
- ・ 学校祭の劇の総練習の映像を見て自分達の演技で良かったところ、改善すべきところを振り返りグループごとに確認して練習を行う。③
- ・ 個人で反省したことをグループで話し合い、良い点や改善すべき点に分けて模造紙にまとめる。①
- ・ 調理実習後、味や手順について確認し、次回気を付けることをまとめる。②
- ・ 調理実習後に、各グループの成果や反省を行い模造紙にまとめ全体の前で発表する。③
- ・ 「卒業生を送る会」の動画を見直し、良かった点、改善点を振り返る。②

## 7 作業学習

### (1) 産業科

#### 協同①ー「互恵的な相互依存関係」

- ・ 他学年同士を組み合わせに進め、各製品の作り方を教えたり教わったりする。
- ・ 他の人のやり方や方法を聞いて参考情報として考え合わせ、自分の方法につけ加えたり改善したりする等、方法の質を向上させる。
- ・ 自分が普段使用している方法を仲間に伝え合っ、より効率の良い方法を見つけるために話し合う。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業製作の四角皿・小を全員で70枚作るために、一人一人が仲間の制作状況を確認しながら協力してクラスの全員が課題をクリアする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <b>協同②ー「対面的なやりとり」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>考えたり工夫したりして構築した方法を他学年や他者に伝え合い、新たに取り入れる。</li> <li>ポイントを絞ったり理解しやすい言葉を選んだりなど、お互いに効率良く伝えるための工夫をして助言し合う。</li> <li>教えてもらうという素直な態度で教えを受ける。</li> <li>作業の進捗状況を含めて発表し合うとともに、作業を効率良く進めるために作業をする位置をお互いに話し合っ<br/>て決める。</li> <li>他学科作業において他学科生徒に自学科作業の内容を説明する際、自学科生徒間で予行演習を行い、教え方や説<br/>明の言葉、動作等について善し悪しをアドバイスし合う。</li> </ul>                                                                                                |
| <b>協同③ー「個人としての責任」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>役割を分担する、設定された全体の生産目標数や生産期限に沿って個人の計画を立てて取り組むなど、個人個人<br/>に責任を持たせて取り組ませる。</li> <li>他学年や他者へ教えるために、自らの仕事について十分に理解を深める。</li> <li>製作に関して自ら考えた意見を述べる際、意見に対する責任を意識しながら伝える。</li> <li>意見を出したり話し合ったりして、より質の高い製品を製作する方法を教える。</li> <li>個人の計画に基づく生産高（出来高）を一覧表などに記入させることで、全員の意識を高める。</li> <li>販売用製品を一人一品に決めて作らせることで、個人としての責任を意識させる。</li> <li>日直がしている全体への声かけを必要最小限にとどめて、仕事を進める上で必要な判断力や状況把握力などの個<br/>人の責任に対する意識を高める。</li> </ul> |
| <b>協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に<br/>関わるスキル）</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話を穏やかな表情でうなずきながら聞く。【コミュニケーションスキル】</li> <li>相手の話を聞いて、意見が違ってても感情的にならずに建設的な意見を述べる。</li> <li>攻撃的な表現や非難をする言葉などを用いずに、落ち着いて穏やかな気持ちで相手の間違いを指摘する。【コミュ<br/>ニケーションスキル】</li> <li>相手の話や行動で良いと感じることがあれば、それを認める言葉を用いて、素直な気持ちで褒める。【コミュニ<br/>ケーションスキル】</li> <li>失敗したこと等が原因で落ち込んでいる仲間に対しては、大事な仲間であることを伝えて勇気づける。【コミュ<br/>ニケーションスキル】</li> <li>教わったり教えたりする際、相手の良い点を認め合うことで逆の立場になったときの意識を高める。【集団活用ス<br/>キル】</li> </ul>            |
| <b>協同⑤ー「チームの振り返り」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>作業に対する取り組みについて、生徒同士で評価し合う。</li> <li>他チームのやり取りを見聞きして、良い点や自チームの製品が向上する方法を振り返る。</li> <li>釉薬の溶き方に関する穴埋め問題を答えられない1年生に対して、3年生が再度教えることで、制作上のポイン<br/>トを再確認することができる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         |

## (2) 農業科

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>協同①ー「互恵的な相互依存関係」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・収穫や除草を行う際、除草範囲を決め道具などを使い、時間内にグループの目標面積を終える。</li><li>・タマネギの選別作業において、全員で協力して作業台のタマネギ選別を時間内に終わらせる。ペアでどこからどこまで選別するか作業分担を確認する。</li><li>・2年生は1年生にプラグトレイの洗いを教え、3年生は1年生に除雪で使用するスコップの正しい使い方を教えながら、時間内に協力して作業を終わらせる。</li><li>・作業内容を理解し相談しながら、効率の良いやり方を協力しあって見つける。</li></ul>                                                                                       |
| <b>協同②ー「対面的なやりとり」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・道具の正しい扱い方・片付け、準備を仲間と教え合う。</li><li>・作業学習の内容について、毎時間教師から説明された内容を基に各自作業の流れを考え、仲間と確認し伝え合う。</li><li>・各学年やクラス内で作業方法と、手順等を伝え合う。(学校祭・実習期間中の管理)</li><li>・休憩時間や終業時間の際に、声をかけ合い休憩を取ることができるよう作業の区切りや片付け時間のタイミングを見て促し合う。</li><li>・2、3年生が1年生に道具の使い方を教えたり、質問に答えたりする。</li><li>・様々な作物や花の管理方法で学んだことを仲間や後輩と伝え合う。</li></ul>                                                  |
| <b>協同③ー「個人としての責任」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・一人一人が播種や鉢上げなど管理作業を行い、販売する。</li><li>・農業科の作業を適切に行うために、一人一人に体力が備わっているが大切な条件になることを理解する。</li><li>・一人一人が与えられた作業の意味を確実に覚え、ミスが無いよう正確にやり遂げる。</li><li>・時間内に終えるため、スコップの使い方やスポンジなど作業道具の使い方を覚え、手際良く作業する。</li></ul>                                                                                                                                                   |
| <b>協同④ー「協同学習スキル」(考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル)</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・販売活動を通して、お客さんへの接客や関わり方を考える。【コミュニケーションスキル】</li><li>・元気の良い挨拶と、報告・連絡・相談ができる。【コミュニケーションスキル】</li><li>・販売活動を通して生産品がお金に替わることを体験し、作業学習の意味を考える。【考えるスキル】</li><li>・竹洗いの際に、綺麗に洗えているか確認し合い、仲間からの指摘を受け入れることができる。【集団活動スキル】</li><li>・作業中、わからない事は随時仲間と相談し、解決出来なければ教師に聞く。【コミュニケーションスキル】</li><li>・作物だけではなく廃土山の必要性、畑の状態や管理方法を学び、後輩に引き継いだり質問に答えたりする。【コミュニケーションスキル】</li></ul> |
| <b>同⑤ー「チームの振り返り」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・タマネギの選別作業で目標を達成できた後に、何が良かったか、何が悪かったかを話し合い、発表して仲間と共有する。</li><li>・作業学習の取り組みを反省し、次回に生かす。</li><li>・どの様な手順で作業を行えば効率的に進めるか話し合い、次に同じ作業を行う時につながるか振り返る。</li><li>・ポット洗いなど、決められた時間内に洗い終えるか目標個数を決め、終了時間後に目標が達成できたか反省を行う。</li></ul>                                                                                                                                  |

### (3) 生活家庭科

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>協同①ー「互恵的な相互依存関係」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙すき作業で、作業がスムーズに流れるように各自の役割と気を付けることを明確にして、製品を生産する。</li> <li>・除雪の作業で、除雪する場所と除雪を終える時間を明確にし、目標を立てる。雪山を崩す人、ソリに乗せる人など役割分担をして行う。</li> <li>・封筒作りの際に、流れ作業で行い、作業が止まらないように声を掛け合い協力して手際よく行うことができる。また、一人一人の、能力に合わせた出来高の目標を立てる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                               |
| <b>協同②ー「対面的なやりとり」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで清掃活動に取り組む前に、掃除の方法について、話し合い助言し合って、より適切な方法を確認し合う。</li> <li>・石けん作りの際に、ペアでタイムを計る人と振る人に分かれて行う。また、どうしたら効率よく作成できるのか適切な方法を話し合う。</li> <li>・紙すき作業の際に、ローラーがけの担当者の2人でお互いに出来を確認する。また、できが良ければ、誉め合ったり、どうすればうまくローラーがけができるのか、お互いに助言し合ったりする。</li> <li>・縫工作業の際に、ペアで作成手順を確認しながら行う。また、縫工作業が得意な生徒から、他の人へ教える。</li> </ul>                                                                                                                                                       |
| <b>協同③ー「個人としての責任」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・公宅回収で安全かつ効率的に個人目標に到達できるように各自の果たすべき役割を一人一係で明確にする。</li> <li>・紙すきの作業で、自分の役割を理解し責任を持って行うことで仲間と一つの物を作り上げているということを明確にする。</li> <li>・ステンシル布巾製作などでは、自分が失敗すると出来高が減ってしまうこと、仲間の頑張りが無駄になってしまうことを伝え、自分の役割の重要性を明確に知る。</li> <li>・作業内容の説明を求められた際に、自分の役割や仕事について説明することができる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                        |
| <b>協同④ー「協同学習スキル」(考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル)</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いのときには、相手に分かりやすいように絵などを描いたり、手本を見せたりする。【コミュニケーションスキル】</li> <li>・清掃活動の際に、相手の役割分担と自分の役割分担を話し合って決めることができる。【コミュニケーションスキル】</li> <li>・紙すきのローラーがけの際にペアの相手の出来について評価する。また、評価された側は相手の評価を受け入れて、やり直すことができる。【集団活動スキル】</li> <li>・評価者が相手の立場になって考え不愉快な思いをさせないよう、よりよい伝え方のスキルを高めることができる。【コミュニケーションスキル】</li> <li>・縫工作業で、作業工程に従って次の作業は何をするべきかを仲間と相談、連絡し、教師に確認を取ることができる。【コミュニケーションスキル】</li> <li>・失敗したときやみんなに迷惑をかけてしまったときには、素直に謝ることができる。また、失敗した人を許すことができる。【集団活動スキル】</li> </ul> |
| <b>協同⑤ー「チームの振り返り」</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような作業手順で、誰がどの役割を分担すると、効率的に作業できるのかについて、チームごとに振り返る。その次のステップとして、個々の課題を明確にして役割を交代して取り組み、どのようなことに気を付けると、精度の高い製品が作れるのか振り返る。</li> <li>・どのような言い方や話し方をすると相手に伝わりやすいのかを振り返る。</li> <li>・作業日誌で、ペアで一緒に反省する項目を作りペアで話し合い、より良い製品を作るための振り返りを行う。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                 |

## 第5章 成果と今後の課題

### 1 成果

国語、数学、体育、音楽・美術、生活単元学習、作業学習で、次のとおりの成果が挙げられた。

#### (1) 国語

- ・目標や生徒の役割（リーダー、フォロワー）が明確になっていると、グループ内での話し合いがスムーズに行われ、グループで問題を協力して作る活動、問題を協力して答える活動が主体的に展開された。特に、戸惑っている仲間に気付いた生徒がリーダーにフォローするように提案しており、協力することができていた。
- ・教師の「みんながチームの一員。」という言葉がけが各生徒の意識付けとなり、それぞれどのような働きをしたら良いか理解して、話し合いができた。
- ・グループの中での話し合いに積極的に参加することができなかった生徒が、ホワイトボードの内容を代表して読むなど各場面で個人の責任を与えられる場面設定があり、学習を効果的に展開することができた。
- ・話し合いのルールや方法が明確化されることにより、生徒は話し合いに必要な態度や能力を理解して自主的に活動することができた。
- ・お互いに聞き合ったり、伝え合ったりと会話がよくあり、コミュニケーションがとて多くなった。

#### (2) 数学

- ・仲間を意識して、コミュニケーションや社会性の向上が見られた。
- ・習熟度別での学習を行っていることもあり、学力やコミュニケーション力があるグループでは、協同学習を取り入れやすかった。
- ・協同学習を取り入れるときには、単元の中で基礎的な内容を学習したあと、基礎の学習を応用する学習のときやある程度の人数で行うときに設定することも考える必要がある。
- ・グループメンバーの実態差が大きい場合でも、それぞれの課題をやって1つの表を完成させるという設定で授業を行うと、効果的な学習を展開することができた。
- ・どのペアも、互いに答えを言い合い、その理由も検討できていた。それぞれで聞いたり、尋ねたり、尊重したりと色々な形で活動できていた。
- ・解き方をペアに優しい言葉で教えている生徒もいた。仲間への優しさや思いやりを見ることができた。

#### (3) 体育

- ・体育では作戦会議、振り返り、分析を行ったことで、生徒同士で相談して取り組むことができた。
- ・各種目で話し合い活動を取り入れることで、話し合いはスムーズになってきた。
- ・体育の授業だけではなく、各授業と連携することで話し合う力が高まっていくため、それぞれの担当者と連携を図り、統一した指導を行うことの大切さを再確認することができた。

#### (4) 音楽・美術

- ・芸術教科は、今まで行っていたことが協同学習につながることや、協同学習の要素とつなげやすい内容が多くあり、音楽では協同学習スキルを明確に取り入れることで、歌やパフォーマンスの質や自発的に取り組む姿勢に向上が見られた。
- ・美術では一人で作品を仕上げていく場面が多い中、協同学習を取り入れることで授業全体に活気が生まれ、結果として授業への取り組み姿勢が向上した。

- ・協同学習をより豊かなものにするためには、協同学習スキルと知識・技能を照らし合わせて指導することで、生徒の成長にもつながる授業展開ができることに気がついた。

## (5) 生活単元学習

- ・協同学習を取り入れた係活動の時間を増やしたことにより、協力し合って物事を解決する力を養うことができた。
- ・協同学習スキル（集団活動スキル）として役割を分担し、終わった人はまだ終わっていない人の手伝いをするすることで、協力して作業することができた。
- ・全員で意見を出し、相談して質問内容を決めることができた。
- ・進路の学習で全員の感想を基に、今後の方向性や課題を考えることができた。
- ・自分の長所や短所を文章に書くことで、生徒一人一人の良い点や新たに課題を見つけることができた。
- ・学校祭の劇練習で、回数を重ねるにつれ仲間同士で話し合いができるようになった。
- ・学校祭の劇練習でグループ練習を多く設定することで、生徒が自主的に練習をしたり、お互いの演技を見合って指摘し合ったりする場面が多く見られた。

## (6) 作業学習

### ① 産業科

- ・自分の行動が周りに与える影響について考えさせることにより、他者への意識が高まった。
- ・取り組ませる際、個に合った注意点を意識させると達成度合いを高めることができた。
- ・個の責任を十分に果たすことで、達成感を感じることもできた。

### ② 農業科

- ・生徒が主体的に考えて動くことができるようになってきた。
- ・先輩が後輩に作業方法や手順を教えることで、教える大変さや教える内容の整理、教えることの責任を育むことができた。また、後輩は目上の人に対する礼儀を意識することができた。
- ・時間の意識、目標個数の意識を促すことにより、作業へのプランニングや見通し、自己の実力の具体的な数値化、ノルマ達成の成功体験を向上させることができた。

### ③ 生活家庭科

- ・生徒が仲間と相談したり、声を掛け合ったりするような姿が見られるようになってきた。
- ・話し合いや相談など、教師の言葉かけがなくても日常的に仲間と話し合う姿が徐々に見られるようになった。
- ・生活家庭科では、話し合い活動を行う前の段階として事前の学習や積み重ねも必要である。

## 2 今後の課題

- (1) 協同学習スキルを計画的に指導していくことが必要である。
- (2) グループ編成を行う際ある程度、教師側でグループメンバーを事前に決めておくことが重要である。しかし就労後には、色々な人と関わりを持つことになるため、様々な人間関係を体験させ、各場面に対応できるようなグループ編成を考える。
- (3) 今まで行ってきた学習であっても、教員自身が意識して協同学習を取り入れていく必要がある。
- (4) S Tとの共通理解や情報共有が必要である。また、グループの分け方の工夫やS Tを効果的に配置する必要がある。
- (5) 協同学習を授業で活用するためには、日常的に実施して習熟する必要がある。
- (6) 国語・数学では、協同学習の要素と実態に応じた個別の課題をバランスよく配置し、授業づくりや学習環境の設定を行うことが重要である。

## 第6章 考察

### 1 学びの共同体づくりを実現する学習集団の形成段階

学びの共同体作りを実現する学習集団に学級を変えていくプロセスは、原田（2007）によれば、次の表のとおりです。

本校の協同学習を通した学習集団の成長は、基本的には第1段階にあるものと考えられます。教科や教師によっては第2段階に入りつつあるケースも見受けられます。今後は、各学級・学習グループが第2段階に完全移行し、生徒が目標・課題に応じて自主的に協同して学習する段階である第3段階を目指すことが求められます。

#### 学びの共同体づくりを実現する学習集団の形成過程

##### 第1段階(L1)～グループ内の互恵的関係の体験的理解、聴き合う関係や学び合いの成立による全員参加の実現

課題に応じて話し合い、個人思考・集団思考の適切に組み合わせた協同的問題解決を体験することで、協同することの大切さを学び、グループ内で協同する関係が育まれていく段階です。

##### 第2段階(L2)～目的に応じた個と集団（グループや学級）の対話的交流

グループ内での協同の学びがうまく働くようになると、今度は目的に応じてグループの枠を超えた学び合いが行われるようになります。また、グループや学級全体の話し合いの結果やアイデアが、授業全体の流れに良い意味で反映されるようになります。

##### 第3段階(L3)～学習者の自律と自立、協同の精神に支えられた個の集合体としての学習集団の形成、自主的な協同的問題解決

目標・課題に応じて、自主的に協同して学習する段階です。プロジェクト型問題解決学習、グループプロジェクト研究、課題探究型の総合的学習などの学習方式を取り入れ、課題探求や問題解決を目的にした協同参画の企画を実現します。

### 2 協同学習を成立させるための教師の力量形成

協同学習を実現させるために教師が身につけるべき力量としては、原田（2007）によれば、次の表のとおり4つの段階モデルが提唱されています。

平成27年度の実践研究は第1段階にありましたが、28年度は第2段階に入ってきています。

今後は担当する生徒集団の発達段階に合わせて、個別・ペアやグループ・学級全体の学習形態を効果的に組み合わせ、学習目標に応じて柔軟に使い分けができるようになる第3段階を目指すことが必要です。

#### 協同学習を成立させるための教師の力量形成モデル

##### 第1段階(T1)協同学習の理論と基本的な技法と方略の理解

ワークショップ等で協同学習の基本的な考え方を体験的に理解し、協同学習の基本的な技法や方略を用いて、ペアやグループを活用した学習が次第にできるようになります。

##### 第2段階(T2)協同学習の多様な技法群と方略の適用

教師は、ペアやグループで協同して学習する（させる）体験を通して、授業で協同学習の基本的な技法を使えるようになります。

##### 第3段階(T3)協同の精神に支えられた授業の開発と運用

教師は、担当する生徒集団の発達段階に合わせて、個別・ペアやグループ・学級全体の学習形態を効果的に組み合わせ、学習目標に応じて柔軟に使い分けができるようになります。

### 3 協同学習と「主体的・対話的で深い学び」

中教審答申（２０１６）では、次期学習指導要領の改訂の方向性が明確化されています。学びの成果として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の３つの資質・能力を身に付けていくためには、学びの過程において子供たちが、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりしていることが重要です。また、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも重要になります。次期学習指導要領等が学習・指導方法について目指すのは、「主体的・対話的で深い学び」の実現であり、次の視点に立った授業改善を行うことにより、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることです。

#### 三つの視点に立った授業改善

- ① 「主体的な学び」～学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。  
子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。
- ② 「対話的な学び」～子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。  
身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。
- ③ 「深い学び」～習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

#### (1) 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」は、生徒一人一人のキャリア発達上の課題に気付かせながら展開する協同学習を通して、実現しやすくなるものと考えます。

#### (2) 対話的な学び

生徒同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」は、多様な表現を通じて、教師と生徒や、生徒同士が対話し、それによって思考を広げ深めていく協同学習の学習方法とは、ちょうどねらうところが同じです。しかし、協同学習スキルの指導が十分でない場合には、思考が広がりや深まらないため、協同学習スキルの指導を充実させることが「対話的な学び」を成立させる上ではきわめて重要です。

また、生徒によって、得意な学び方は異なります。情報処理の仕方が図解してもらった方が分かりやすい場合（同時処理）もあれば、順序立ててマニュアルの各項目を示された方が分かりやすい場合（継次処理）もあります。生徒に応じた学び方を工夫することは、「主体的な学び」や「対話的な学び」を成立させる上で重要です。協同学習と共に生徒の「学び方」に応じた学習展開が必

要になります。

## 学び方

涌井（2012）によれば、8つのマルチ知能と「やる気」、「注意」、「記憶」の3つの11の力を「学び方を学ぶ授業」で指導することの大切さを指摘しています。それを一部改変して以下紹介します。

| マルチな力 | 各知能の説明                                                                      | Gardner(1999)による分類 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 言葉    | 話し言葉や書き言葉を効果的に使いこなす力。説得力や言葉を使って覚えた記憶力など。                                    | 言語的知能              |
| 数     | 数字を有効に使えたり、何かを明快に論証したりできる力。分類、類推、予測、仮説の検証ができるなど。                            | 論理・数学的知能           |
| 絵     | 視覚的・空間的に物事を捉えたり、視覚的・空間的な認識を自由に転換したりできる力。絵、色、線、形、距離に敏感に反応できたり、イメージできたりする力など。 | 空間的知能              |
| 音楽    | 多様な音楽の種類を認識したり、識別したり、作曲したり、何かを音楽で表現（演奏）したりできる力など                            | 音楽的知能              |
| 身体    | 物事を自分の体で表現したり、ものを自分の手で作ったり、作り替えたりする力。協調動作やバランス、手先の器用さ、身体的な強さや柔軟さ、機敏さなどを含む。  | 身体・運動的知能           |
| 人     | 他人の感情やモチベーションを見分ける力。人間関係における様々な合図を読み取れる力など。                                 | 対人的知能              |
| 自分    | 自分の長所や短所を正確に把握し、気性や願い、目標、動機づけなどの自覚ができる力。また自分自身を律したり、大切にしたりする力など。            | 内省的知能              |
| 自然    | さまざまな種類の植物や動物を認識したり、分類したりできる力。自然現象への敏感さや、いろいろな無生物の物質の違いを区別できる力など。           | 博物館的知能             |

マルチな力は、教科の授業の中でそれぞれのマルチな力を扱うことで、学習内容の理解と定着が図られますので、意識的に学び方を授業の中で指導していく必要があります。

### (3) 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びです。

| 各教科等の「見方・考え方」の例 |                                                                                                                            |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○ 国語            | 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けることを、「言葉による見方・考え方」として整理することができる。                        |
| ○ 数学            | 「数学的な見方・考え方」のうち、「数学的な考え方」については、目的に応じて数・式、図、表、グラフ等を活用し、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識・技能等を関連付けながら統合的・発展的に考えることであると整理することができる。 |

#### (4) 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点からの授業改善

これら「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点は、子供の学びの過程としては一体として実現されるものであり、また、それぞれ相互に影響し合うものでもあります。授業改善は、これら三つの視点から改善を図っていくことが求められます。

また、単元や題材のまとまりの中で、生徒の学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められます。協同学習を行うことが即座に「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点を満たすことになるものではありません。教師は単元や題材のまとまりの中で教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場면을効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められます。これら三つの学びの視点は、指導する部分と協同学習を活用する部分とを単元や題材の指導計画の中で効果的に配置し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が達成されるように授業設計を行うことが重要です。

具体的には、「主体的・対話的で深い学び」は、1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的に学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、生徒が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていきます。

協同学習は言うならば、どの教科や指導形態で1 単位時間ごとに設定されるものではなく、「主体的で対話的な深い学び」の視点に基づく授業づくりの「入口」であり、最終的な手段ではありません。

そして、学びの「深まり」の鍵となるものとして、全ての教科等で整理されているのが、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」です。

生徒は、各教科等における習得・活用・探究という学びの過程において、各教科等で習得した概念（知識）を活用したり、身に付けた思考力を発揮させたりしながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かいます。その過程においては、“どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか”という、物事を捉える視点や考え方も鍛えられていきます。

こうした視点や考え方には、教科等それぞれの学習の特質が表れるところであり、算数・数学科においては、事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えることなどです。

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」は、各教科等の学習の中で働くだけではなく、生徒が大人になって生活していく上でも、社会生活の中でデータを見ながら考えたり、アイデアを言葉で表現したりするときに、「数学的な見方・考え方」や、「言葉による見方・考え方」が活用され、世の中の様々な物事を理解し思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出していくことが求められます。

知的障がい教育においては、各教科等や指導形態において、それぞれの「見方・考え方」を丁寧に習得させ、それらを活用して物事を理解し、よりよい課題解決が可能となるように指導していくことが重要になります。

今後は、生徒一人一人のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取

り組み、協同学習の「振り返り」を通じて次につなげること、協同学習スキルを系統的に習得させ、生徒がこのスキルを活用しながら、「対話的な学び」を展開すること、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を育て、それを働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることができるようにして行くことが求められます。

#### 引用・参考文献

- ・市川伸一（2014）準備委員会企画シンポジウム2 学習者の活動性を高め、理解を深める協同学習ー“教えて考えさせる授業”と“LTD授業”の対話ー,教育心理学年報,第53集,199-204.
- ・茨城県教育研修センター（2005）教育相談に関する研究 学校生活適応のための指導・援助の在り方 平成14・15年度, 研究報告書第50号.
- ・大谷博俊・小南霞（1999）自閉症児に対する前言語的コミュニケーションの指導ー共同行為ルーティン「クレープづくり」を通してー, 和歌山大学教育学部教育実践研究研究指導センター紀要9号, p37-43.
- ・大庭重治・葉石光一・八島猛・山本詩織・菅野泉・長谷川桂（2012）小集団を活用した特別な教育的ニーズのある子どもの学習支援, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 18,29-34.
- ・川上綾子・石橋恵美・江川克弘・益子典文（2015）「学びのユニバーサルデザイン」の枠組みを援用した授業設計とその効果, 鳴門教育大学学校教育研究紀要 29, 151-159.
- ・三宮真智子（2004）思考・感情を表現する力を育てるコミュニケーション教育の提案：メタ認知の観点から, 鳴門教育大学学校教育実践センター紀要19, 151-161.
- ・清水笛子（2013）知的障害教育における協同学習の実践と課題, 静岡大学教育学部研究報告.人文・社会・自然科学篇, 63,247-255.
- ・中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）.
- ・寺嶋浩介・丸山俊幸・中川一史（2013）小学校学習指導要領に基づく思考力・表現力育成のための目標リストの開発, 長崎大学教育実践総合センター紀要, 12, 53-59.
- ・原田信之（2007）「学びの共同体」づくりのための授業技法化モデル, 平成19年度文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）.
- ・横浜市教育委員会（2012）子どもの社会的スキル横浜プログラム理論編（三訂版）
- ・涌井 恵（2006）協同学習による学習障害児支援プログラムの開発に関する研究ー学力と社会性と仲間関係の促進の観点からー, 文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））研究報告書).
- ・涌井 恵（2012）発達障害のある子どももみんな共に育つユニバーサルデザインな授業・集団づくりガイドブック（試作版）～協同学習と「学び方を学ぶ」授業による新しい実践の提案～.

# おわりに

本校では、平成27年度から3カ年計画で、「卒後を見据えたキャリア発達を促す指導法の研究～協同学習と生活指導の充実を目指して～」を研究テーマとして取り組んできました。

校内研究では、協同学習を1単位時間の授業展開に位置付けることを意図して進められてきましたが、「教える」部分と協同学習で取り扱う部分のすみ分けが課題として挙げられていました。

教師自身の力量の向上の観点からは、協同学習は良い授業の構成要件であるとも言えるため、可能な限り1単位時間での協同学習の5要素の活用を試行することが望ましいと考えます。しかし、5要素を含めない授業や教えることが中心になる授業も単元や題材の指導計画の中で計画的に位置付けられる必要があります。このことは今後の課題でもあります。

そして、協同学習を授業改善の入口として、「主体的で対話的な深い学び」の3つの視点から、単元や題材の指導計画を見直すという大きな課題が残されています。このことは、従来以上に教師自身の授業者としての力量の向上とともに、単元や題材の指導計画を3つの視点から、構造的に作成することができるといふ、より高い授業力と専門性が求められています。このような意味での授業力や専門性は、これまでの知的障がい教育の教育実践の蓄積の中では、大きな課題となっていた部分です。

今後は、単元や題材の指導計画レベルで、「主体的で対話的な深い学び」の3つの視点からの計画を作成・実施・評価・改善を図る必要があります。そのためには、次期学習指導要領に示される、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」という3つの評価の観点から、指導目標を設定するとともに、「主体的で対話的な深い学び」の3つの視点から指導目標を効果的に達成できる指導計画を作成し、達成度を評価規準に基づいて評価する研究が求められます。

この研究は、個別の指導計画という教育の個別化の方向性とは異なり、学習集団の単元や題材の指導計画と評価規準を作成するという、単元の大枠で準ずる教育の手法をこれまで以上に取り入れるという難しさがあります。しかも、生徒によっては、更に評価規準を修正する必要がある場合もあります。

しかし、従前の教育の個別化の方向と、評価規準に代表される教育の集団化の方向は、これまでの知的障がい教育で課題として意識されてきた事項の解決を図ることができるものであると考えます。先駆的な研究では、評価規準を単元の指導計画に位置付けて指導することが行われていますが、今後は知的障がい教育の「スタンダード」となるものであります。

そのため、本校では、今年度から単元の指導計画に次期学習指導要領の3観点ごとに評価規準を設定して段階別評価を評価基準に基づいて評価することを試行的に実施していきます。

今後も、生徒一人ひとりが夢や希望を持ちながら充実した社会生活が送れるよう、日常的な研究・研修の充実を図って参ります。

期待され信頼され、「選ばれる学校」であるために、皆様に御一読賜り、御意見・御指導いただければ幸いです。

平成29年3月

北海道今金高等養護学校長

高 嶋 利次郎

## 執筆分担

|     |                              |        |
|-----|------------------------------|--------|
| 第1章 | 協同学習とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・     | 高嶋 利次郎 |
| 第2章 | 特別支援教育における協同学習・・・・・・・・       | 共同研究者  |
| 第3章 | 協同学習の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・    | 共同研究者  |
| 第4章 | 協同学習の要素別活動事例集・・・・・・・・・・      | 共同研究者  |
| 第5章 | 成果と今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・   | 共同研究者  |
| 第6章 | 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 高嶋 利次郎 |

## 共同研究者

|      |        |        |       |        |       |  |
|------|--------|--------|-------|--------|-------|--|
| 校 長  | 高嶋 利次郎 | 教 頭    | 柴尾 尚文 |        |       |  |
| 1 学年 | 橘 晴美   | 田中龍右エ門 | 中島 朋之 | 津村 理子  | 山木 謙  |  |
|      | 小林 和幸  | 西脇 功二  | 成田 直浩 | 渡邊 雅都  | 石田 浩子 |  |
|      | 工藤 大地  | 木田 絢子  | 村瀬はるな | 高山 愛望  | 後藤 倫弘 |  |
|      | 青山 未帆  | 近藤 千晶  |       |        |       |  |
| 2 学年 | 祐川建一郎  | 高田のぞみ  | 金子 亘喜 | 岩城 健太  | 山柿 紘子 |  |
|      | 能代麻衣子  | 外山 陽子  | 亀田 倫代 | 鐘ヶ江真知  | 山本 拓郎 |  |
|      | 小松 裕樹  | 関口 浩介  | 吉本 香奈 | 藤倉 雄一  |       |  |
| 3 学年 | 泉谷 好子  | 上村 幸教  | 石川 誠  | 佐々木真由美 | 山田みゆき |  |
|      | 野呂 篤志  | 初山小枝子  | 小原 政住 | 鈴木 貴史  | 住谷 亮  |  |
|      | 海田 健   | 森山 紫帆  | 穴田 祐美 | 出村 朱美  | 林谷 和織 |  |

## 知的障がい教育における協同学習の実践

---

発行者 北海道今金高等養護学校長 高嶋 利次郎  
発行日 平成29年5月2日

---

〒049-4304 北海道瀬棚郡今金町字今金454番地1  
TEL (0137) 82-3121  
FAX (0137) 82-3092